

# 浦添市医師会報

The Journal of the URASOE Medical Association

新春号

Vol.82

2020(令和2年)

pickup

## 新年のご挨拶

(浦添市医師会三役)

第30回浦添市医師会ボウリング大会

うらそえ多職種親睦会

第21回うらそえ市民公開講座

## CONTENTS

- 01 新年のご挨拶
- 03 第55回定時総会
- 04 二水会  
8月「浦添市と浦添市医師会との意見交換会」
- 06 学術講演会  
第143回「沖縄の緩和ケアを『広める』『高める』『深める』『繋げる』に向けて」の取り組み  
第144回「琉球大学麻酔科のこれまでとこれから」
- 15 第30回浦添市医師会ボウリング大会
- 18 浦添市在宅医療ネットワーク第12回総会
- 20 うらそえ多職種親睦会2019
- 23 第55回浦添市医師会ゴルフコンペ  
平安病院 法人統括院長・臨床研修センター長 平安 良雄 先生
- 25 第21回うらそえ市民公開講座
- 28 浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座 報告
- 30 浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー多職種連携研修会 報告
- 32 第61回地区医師会連絡会議 報告
- 33 那覇空港航空機事故対処部分訓練 報告
- 36 令和元年浦添市医師会忘年会  
会員寄稿
- 38 『65歳のとびら』 まえだクリニック 院長 今山 裕康 先生  
会員寄稿 私の一曲
- 39 『私の好きな楽曲 花ヌカジマヤー(風車)ー沖縄の心を奏でー』 東産婦人科クリニック 院長 東 幸子 先生  
会員寄稿
- 40 『詩歌 八十路に入りて時に思うこと』 末吉内科外科胃腸科医院 院長 末吉 惟純 先生
- 41 新入会会員紹介  
浦添さかい眼科 酒井 寛 先生  
平安病院 豊里 一郎 先生
- 44 赤嶺達生先生を偲んで『ありし日の赤嶺達生先生を偲んで』
- 45 訃報 元浦添胃腸科外科医院 院長 山内 義正 先生
- 46 理事会報告
- 50 入会・退会・異動報告／表彰
- 51 講演会・研修会のご案内
- 52 首里城火災復旧支援金のご協力について
- 53 事務局からのお知らせ
- 55 編集後記  
浦添市医師会提供ラジオ番組  
「ゆんたく健康トーク」出演予定

### 表紙の写真

#### 杜の美術館(浦添市美術館)

2020年あけましておめでとうございます。  
葛飾北斎の浮世絵「琉球八景」は何となく耳にしたことはあるかと思いますが、浦添市にも「浦添八景」が制定されていることをご存じでしょうか？  
そのひとつに浦添市美術館が「杜の美術館」として選定されています。今からちょうど30年前の1990年(平成2年)に開館されました。緑の木々の合間から見えるいくつもの多角形のドームのような塔の建物からは、ヨーロッパ古都の佇まいを思い起こさせてくれます。散策のコースとしても最適です。ぜひお立ち寄り下さい。

## 新年のご挨拶(令和2年)

会長 池村 剛



新年あけましておめでとうございます。令和2年の新春を迎え、新年のご挨拶を申し上げます。会員の先生方には、旧年中に賜りましたご支援ご協力に厚く感謝するとともに、本年も医師会の活動にご協力いただけますようお願い致します。

令和元年秋の叙勲で、浦添市医師会元理事の多々羅靖弘先生が、瑞宝双光章の荣誉に浴されました。多々羅先生の、学校保健に関わる長年のご功績が認められ栄えある叙勲となりました。医師会にとりまして大変誇らしく名誉なことです。

浦添市医師会は、創立以来「ホームドクター推進」・「施設間連携」・「インフォームド・コンセント」・「情報公開」を基本理念として活動してまいりました。昨年5月1日より元号が令和に改まりましたが、今年令和2年が本当の意味で令和のスタートの年になります。医師会も創立50年に向けて、令和の時代にさらなる発展を遂げていけるよう努めて参ります。

昨年は、2月5日に旧正新年会を開催いたしました。新年会は久しぶりの開催で、参加は会員の先生方のみとし、会員親睦と情報交換を目的としました。前回は50人ほどの参加でしたが、忘年会に参加されない先生方のご出席もあり、久しぶりにお会いした先生と昔話や近況報告などに花が咲き、楽しく過ごすことができました。今後も続けてほしいとのご意見があり、今年は2月10日(月)に開催致します。これからも旧正新年会が持続発展していけるよう会員の先生方のご理解ご協力をお願いする次第です。

10月には、21回目となる「うらそえ市民公開講座」を開催いたしました。今回は「健康寿命」をテーマに基調講演を行い、参加した皆さんにも一緒にコグニサイズ運動に挑戦してもらいました。年寄りのための運動と思いきや、意外と難しく、汗をかいてしまう程でした。もしかすると、還暦を数年前に通過した私は、すでに年寄りなのではないでしょうか？

11月は浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー主催で、「入退院支援について」をテーマに公開講座を行いました。地域包括支援や在宅医療を推し進める上で、取り上げるべき大切な課題であると思います。

昨年の残念で衝撃的な事件として、首里城の焼失がありました。県民の心と言える首里城の焼失は大変悲しいことですが、再建に向けての活動が火災直後から始まっています。医師会もできる限り協力していきたいと思っております。

浦添市医師会は令和2年1月でA会員83人、B会員184人、会員数は267名となりました。本年も、会員の先生方には医師会活動へのご理解ご協力ご参加いただくと共に、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

子年の令和2年が、会員の皆様方にとりまして、明るく笑顔のあふれる1年になりますよう祈念致します。

## 新年のご挨拶

副会長 洲鎌 盛一



“令和2年”新年明けましておめでとうございます。旧年中は医師会活動に皆様のご協力をいただき大変ありがとうございました。昨年は新天皇即位による令和の幕開け、リチウム電池の発明に貢献した吉野彰氏のノーベル化学賞と明るい話題がありました。一方では8月の佐賀豪雨、9月の台風15号による千葉県を中心とした甚大な被害、大規模停電、10月の台風19号による東日本の災害がありました。会員の皆様にとって、令和2年はどのような年になるのでしょうか？診療報酬の改定があります。医療政策においては2025年にむけての地域医療のニーズを考慮した、地域医療構想会議も進行中です。消費税率も10%になりました。

医療界にとって明るい令和2年になるかどうかは疑問があります。災害ではありませんが“普段していることしかできない。平時からやっていることが大事”。いろんな変化に対応できるようにしたいものです。むつかしい時代になっても、私たち浦添市医師会会員は、医療を必要としている患者さんへ、安心、安全な医療を提供していきたいと思えます。最後に令和2年が皆様にとっては健康で、明るい、良い年になるように祈念いたします。

## 新年のご挨拶

副会長 銘苅 晋



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、台風15号や19号による豪雨災害が全国各地に発生しましたが、沖縄の台風災害は年々少なくなっている印象は私だけでしょうか？おそらく地球温暖化による台風の進路が変化していることが原因と予測されますがそれがよいことなのか悪いことなのかはさておき、今年は、56年ぶりに日本で開催される東京オリンピックが控えており、その時期に台風や豪雨災害が起きないことを祈るばかりです。

さらに今年は、診療報酬改定の年にあたりますが、財政上かなり厳しい改定になることが予測されています。そのために医師会も「医療のあるべき姿」を目指して変化する必要があります。[医師の働き方改革][かかりつけ医の機能強化][予防の重視][在宅医療の推進]などの問題に一つ一つ対処していくことが求められています。大学病院や400床以上の地域医療支援病院受診時の定額負担が200床以上の地域医療支援病院にも拡大が検討されており、ホームドクター制の推進を基本理念としている浦添市医師会にとっては追い風になると確信しています。

今年も医師会会員の皆様にとって健康で幸多い年となることを祈念いたします。

## 第55回 定時総会

日時：令和元年6月24日(月)19:30

場所：浦添市医師会事務所

第55回浦添市医師会定時総会が、6月24日(月)19時半から浦添市医師会事務局にて開催された。

司会の藏下要理事より、会員数269名のうち238名の委任状を含む出席による本総会成立と、上程された全ての議案について決議が可能との報告があり、開会が宣言された。

続いて池村副会長の挨拶の後、議長の選出が行われ、議場に諮ったところ執行部案の池村副会長が選出された。

- ・議決権のある当法人会員総数：269名
- ・総会員の議決権の数：269個
- ・出席会員数(委任状によるものを含む)：238名
- ・この議決権の総数：238個

### 第55回浦添市医師会定時総会

- 1.開会宣言
- 2.会長挨拶
- 3.議長選出
- 4.議事

- 第1号議案 平成30年度(第27期)事業報告に関する件(満場一致で承認)
- 第2号議案 平成30年度(第27期)決算報告に関する件(満場一致で承認)
- 第3号議案 学校医ならびに健診協力医に関する件
- 第4号議案 その他

以上をもって議長より本総会の議事を終了した旨が述べられ閉会した。



# 浦添市と浦添市医師会との意見交換会

日時:令和元年8月7日(水)19:00

場所:浦添市医師会

浦添市医師会事務局

8月の二水会は、恒例となっております浦添市と浦添市医師会の意見交換会行いました。今年、浦添市より松本哲治浦添市長をはじめ、浦添市教育委員会、浦添市福祉健康部、こども未来部、企画部、総務部の総勢23名の皆様にご参加いただき、浦添市医師会からも理事の先生方を含め、10名の先生方にご出席いただきました。

意見交換の中では、浦添市が行政区と保健所管轄の相違により、救急・災害時等にライフライン(交通・通信等)が麻痺した際の相談・対応先が一元化されていない課題や、学校健診に関する調整、プレミアム付商品券の情報提供など、タイムリーな課題や話題を情報交換する有意義な機会となりました。

和やかな雰囲気の中、病診行連携のますますの発展を確認し合い、懇親を深めることができました。

ご多忙の中ご参加いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



松本哲治浦添市長のご挨拶



嵩本盛兼浦添市教育長のご挨拶



浦添市福祉健康部の皆さん



浦添市教育委員会 教育部の皆さん



浦添市こども未来部の皆さん



浦添市企画部の皆さん



平良淳防災危機管理室 室長のご挨拶



浦添市教育委員会 学校教育課の皆さん



懇親会の様子



浦添市医師会 会員の先生方



## 第143回浦添市医師会学術講演会

日時:令和元年7月17日(水)19:00

場所:浦添市医師会

日本医師会生涯教育講座1.0 単位

カリキュラムコード:10(チーム医療)、81(終末期のケア)



座長:稲福内科医院 院長 稲福 徹也 先生



### 演題

## 「沖縄の緩和ケアを『広める』『高める』『深める』『繋げる』」に向けての取り組み

講師:琉球大学医学部附属病院 地域医療部 緩和ケアセンター  
診療教授 医学博士 中島 信久 先生

2019年8月に「沖縄のがん緩和ケアを『広める』『高める』『深める』『繋げる』」に向けての取り組み」というタイトルで、講演させていただきました。

講演は2部構成で、最初に「緩和ケアの概念」について最近の変化を含めて説明し、次いで本題の「沖縄のがん緩和ケアを『広める』『高める』『深める』『つなげる』」に向けての取り組み」について解説しました。その際の概要をもとに、この取り組みについて記します。

### 1. 緩和ケアの概念

図1に緩和ケアの概念を示します。「従来の考え方」だと、「がん治療」が終わったのちに「緩和ケア」に移行する、すなわち緩和ケアは「終末期」に行うものとなります。一方、「現在の考え方」では、「緩和ケア」はがん治療の早い段階から「がん治療」と並行して提供されます。ところで、ここで示した2つの考え方の比較が示されたのは今から四半世紀以上前のことです。その後、地道な取り組みを経て、「早期からの緩和ケア」が少しずつ実践されるようになってきました。その成否のカギを握るものとしてアドバンスケア・プランニング(ACP)という用語があり、これと類似した用語としてアドバンス・ディレクティブ(AD)やDNAR(Do Not Attempt Resuscitation)があります。ACPはADから発展的に生まれたものであり、それぞれの内容を図2に記します。

図3は進行がん患者の臨床経過を示したものです。「がん治療」はいずれは中止され、

終末期(Best Supportive Care(BSC)と言われる時期)に移行します。こうした流れの中で「がん治療」と「緩和ケア」の位置関係を記しました。臨床の現場では、このACPをどのタイミングで行うべきかという問題があります。大きく分けて、①診断時/初回治療時、②再発時、③がん治療が中止された時期の3つが考えられますが、実際には③の時期に行われることがまだまだ多いようです。しかし治療のできるだけ早い時期に、「がん治療をどこまで続けるか」「(治療中~治療後を含めて)これからの時間をどこでどのように過ごしたいか」などについて話し合うことが重要です。①診断時/治療開始時にACPを行うことが難しくても、せめて②再発時にこれからの治療(化学療法など)の目的や見込みに加えて、治療中止後のこと(生活療養の場の選択など)についても話し合う準備を進めていくことが大切です。

図4に希望する生活療養の場所に関する一般人を対象とした研究結果を示します。余命6ヶ月程度の時期には2/3の方々が「自宅」での療養を希望していましたが、予後1か月以降の療養場所(看取りの場)としてはその多くの方が「自宅以外」の場所を選択しました。症状緩和の質や急変時の対応、介護力の問題を始め、様々な要因がこの結果に繋がっているのだと思いますが、そうした問題を克服し、「いつでもどこでも切れ目のない緩和ケア」を提供できる体制を整備する必要があります。そしてそのために適切なタイミングでACPを行いながら「早期から」先を見据えた「緩和ケア」を提供し続けることがますます重要になってきます。

### II. 沖縄のがん緩和ケアを『広める』『高める』『深める』『繋げる』に向けての取り組み

つぎに、上記テーマについて解説します。私が琉球大学に赴任して半年が経った頃に、沖縄の緩和ケアについていろいろなことが見えてきました。「プラス面」として、①緩和ケアへの関心度が高い人や施設が多い、②各施設の医療者同士の距離が比較的近い、③海で囲まれた地域である、が挙げられます。②は「顔の見える関係」の作りやすさ(連携のしやすさ)に繋がり、③は全県単位の標準的治療・ケアの展開、地域包括システムの構築(急性期病院-緩和ケア病棟-在宅医療など)といったアクションを起こそうとする際に「ちょうどよい大きさ」であると思います。一方「マイナス面」としては、①中央との交流・連携の機会が少ない、②距離的、時間的に外部にアクセスしにくい、③中核となるメンバーはいるが“旗振り役”的な人材は限られる、という印象を持ちました。そうしたことをもとに、沖縄のがん緩和ケアの質の向上を目指して、(1)沖縄県全域への基本的緩和ケアの普及(=「広める」)、(2)地域緩和ケアの中核を担う医療者のレベルアップ(=「高める」)、(3)将来の沖縄のがん治療・緩和ケアを牽引するスペシャリストの育成(=「深める」)の3つが重要であり、(1)として「離島・地域を対象としたWEB勉強会」(石垣島、宮古島、久米島を含む全県11か所で3か月ごとに定期開催)、(2)としてEBMに基づく緩和ケアを理解し実践するための「診療ガイドライン勉強会」の定期開催、(3)として「ESMO-DC」という欧州臨床腫瘍学会が提供する腫瘍内科(がん治療)

と専門的緩和ケアの統合のためのプログラムに琉球大学が申請し、わが国の大学病院として初めて認定されました。さらに、緩和ケアにおける重要なキーワードである「多職種連携」のために「繋げる」という視点から (4)「沖縄緩和ケア研究会」を昨年4月に立ち上げ、11月に第1回学術集会を開催しました(図5-8)。

この原稿を読まれた方、そしてその仲間の方々に、こうした取り組みに関わっていただき、一緒に沖縄における緩和ケア、さらにはがん医療を盛り上げていけたら素晴らしいと思います。

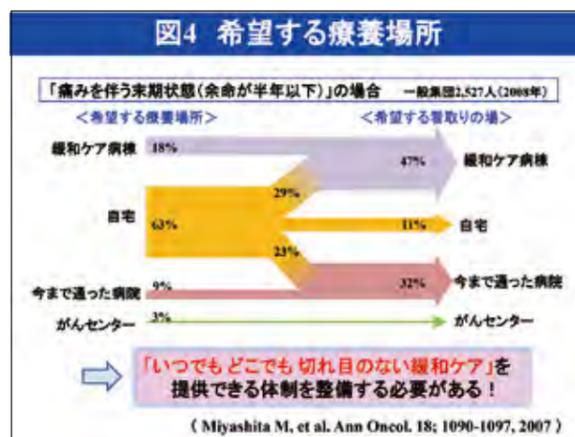
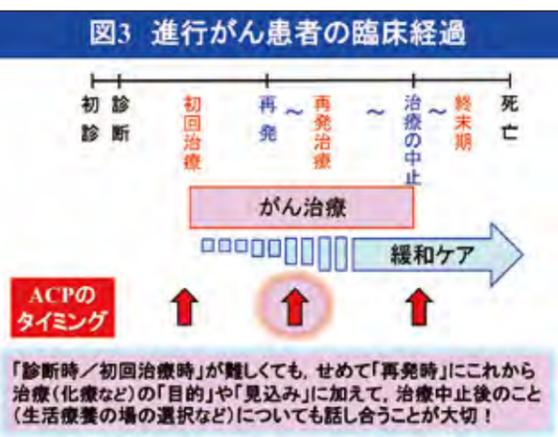
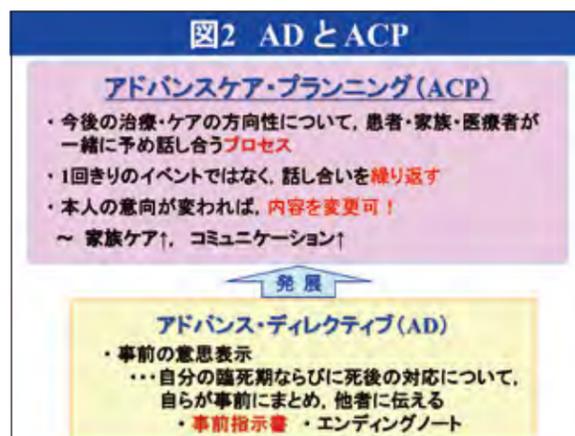
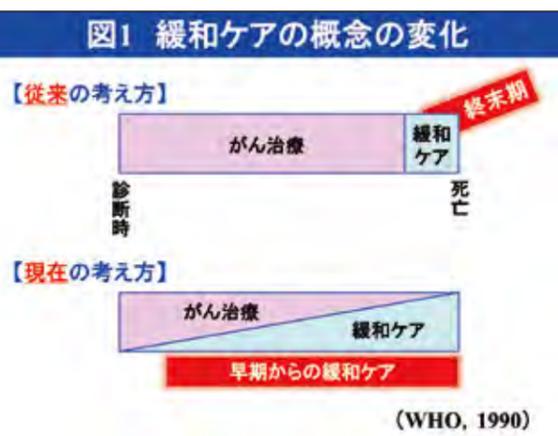


図5 「広める」～基本編：離島・地域WEB勉強会

@ 緩和ケア研修会(PEACE):  
医師+看護師+薬剤師+...

“双方向性”～“受講者参加型”!

- \* 参加アクセスのしやすさに地域格差あり!  
(特に離島・北部地域)
- \* 単発の勉強会を開催しても、効果は限定的!
- \* 定期的に各地域で開催するのはスケジュール的に困難!

⇒「WEB勉強会」を定期開催  
講義(1h)+質疑応答・事例の相談(1h)  
～“双方向性”の“よろず相談所”を目指す!

図6 「高める」～アドバンス編：ガイドライン勉強会

- 対象: PCT/PCU / 在宅などで緩和ケアに中心的な立場で携わる医師、薬剤師、看護師(CNS, CN)など
- 内容: 日本緩和医療学会が刊行する診療ガイドライン(GL)の解説を、学術大会の委員会企画の内容に準じて開催。
- 開催頻度: 3か月毎
- ①「『GL』の考え方」&「消化器症状」(2018.7月)
- ②「呼吸器症状」(2018.10月)
- ③「苦痛緩和のための鎮静」(2019.1月)
- ④「がん疼痛」(2019.5月)
- ⑤「せん妄」(2019.8月)

講師: 各GL作成部会の責任者

図7 「深める」～エキスパート編:  
Integration of Oncology and Palliative care (IOP)

IOPを高いレベルで実践している医療機関に対して、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)が認定するプログラム(Designated Centers of Integrated Oncology and Palliative Care: ESMO-DC)

“緩和ケアに精通した腫瘍内科医”  
“腫瘍内科に精通した緩和ケア医”～二刀流の養成!

- ・2003年にスタート。41か国、200施設で稼働
- ・施設の「大きさ」<「質」を重視して認定
- ・同じ施設内に全て揃っている必要はなく、各機能を提供できる適切な連携があればOK

沖縄向き

図8 「繋げる」～“YUI(結)”編:  
「沖縄県緩和ケア研究会」の立ち上げ

- \* 沖縄における緩和ケアに関する定期的なmeetings
- ① 緩和ケア病棟交流会(3か月毎)
- ② 緩和ケアチーム交流会(年1回;2017.9月に開催)
- ③ その他(地域連携カンファレンスなど)

\* ①, ②などにより学びや交流の場は増えつつあるが、PCU, PCTに所属していない医療関係者も含めて、参加対象をもっと広げられたら...

- ・学びの場
- ・発表の場: 身近な症例報告、活動報告など
- ・横のつながり～交流・連携の場(“YUI(結)”)

～2019.4月に発足～11.17に第1回学術集会(@琉球大学)を開催



講演会の様子



親睦会の様子

## 第144回浦添市医師会学術講演会

日時:令和元年9月18日(水)19:00

場所:浦添市医師会

日本医師会生涯教育講座1.0単位

カリキュラムコード:1(医師のプロフェッショナリズム)、12(地域医療)



座長:浦添総合病院 副院長 乳腺センター長 藏下 要 先生

演題

### 「琉球大学医学部麻酔科のこれまでとこれから」

講師:琉球大学大学院医学研究科 麻酔科学講座 教授 垣花 学 先生

浦添市医師会の皆様、こんにちは。私は琉球大学大学院医学研究科麻酔科学講座の垣花学と申します。琉球大学医学部医学科の第5期生(1991年卒業)です。この度は第144回浦添市医師会学術講演会の演者の機会を与えて頂き、浦添市医師会の皆様に厚く御礼申し上げます。今回は、「琉球大学医学部麻酔科のこれまでとこれから」というテーマで講演した内容の一部をこの紙面をお借りして提供させていただきます。

琉球大学医学部は昭和54年に琉球大学に設置され、昭和56年に第1期生を迎えました。当時はまだ首里キャンパスでしたが、昭和59年に現在の西原町上原地区に琉球大学医学部ならびに医学部附属病院が移転して現在に至っております(図1)。琉球大学医学部麻酔科は昭和58年に初代教授 奥田佳昭先生を迎え、そこからその歴史が始まりました。当時は、沖縄県内に麻酔科医は10人にも満たず、県内の手術麻酔は外科医に依存するいわゆる当科麻酔が主だったと予想されます。そのような状況の中、昭和62年に琉球大学医学部医学科第1期生が卒業し、麻酔科も3名の入局者を迎えることになり、本格的な琉球大学医学部麻酔科のスタートとなりました。それ以降琉球大学医学部医学科の卒業生が増えるにつれ、麻酔科に入局する延べ人数も増加し、現在では琉球大学医学部麻酔科の医局員数は60名を超えるまでになりました(図2) 沖縄県内の麻酔医療(北部、宮古、八重山地区を含む)の大部分を支えるようになっています。この間、琉球大学医学部麻酔科では、臨床、研究そして教育という3本柱を軸として医局運営を行ってきましたが、特に教育に関しては学生の病院実習から初期研修医教育そして後期研修医への専門教育に注力してきました。学生実習では“全身管理のおもしろさを教える”、初期研修医には“実践とフィードバックの繰り返し”、そして後期研修医には“麻酔科の伝道師になってもらう”べく医局員一丸となって専門教育を行っています(図3)。このような教育は、外科や内科のようなメジャー科ではない麻酔科の人員確保には必須なことであり、その重要性を皆で共有しています。

琉球大学医学部麻酔科では開講当時から実験室を有しており、麻酔薬の薬力学や代謝、脳や脊髄などの中枢神経の虚血研究、そして最近ではそれに加えて生体内ガス分子である硫化水素ガスを用いた臓器保護の研究を盛んに行っています。硫化水素ガスは一般的に毒ガスと認識されていますが、生体内で硫黄基を有するアミノ酸の代謝により発生し、それには生理

学的重要な機能があるということが分かってきています。琉球大学医学部麻酔科では米国のマサチューセッツ総合病院麻酔科との共同研究の中で、硫化水素ガス吸入療法により脊髄虚血・再灌流後の遅発性神経細胞死が抑えられるということを見出しました(図4)。さらに、薬剤誘発パーキンソン病に対しても硫化水素ガス吸入療法が、パーキンソン病の発症を抑えることも報告してきました(図5)。硫化水素ガスには、脳や脊髄のみならず、心臓、肺、肝臓、腎臓などの重要臓器に対する保護効果が世界中で発表されてきており(図6)、硫化水素ガスを用いた創薬が多くのベンチャー企業から創出されはじめています。

琉球大学医学部麻酔科の実験室には、本邦で唯一の動物実験用の硫化水素ガス吸入装置があり、敗血症モデルや腸管障害モデルなどを用いてその新たな薬効を見出すべく日夜研究を行っています。その中で、最近われわれが注目しているのは、硫化水素ガスのもつ創傷治癒効果です。日本ではこれから超高齢化社会を迎えますが、特に寝たきり老人の増加は国家的にも問題となってくると予想されています。寝たきり状態の大きな問題のひとつに、褥瘡(Pressure Ulcer)があります。褥瘡はその病態上、治癒が困難であり医療のみならず介護の観点からも大きな問題となっています。我々は硫化水素ガス分子の持つ多彩な生理学的効果を用い、この褥瘡治癒の研究を行っています。マウスの背中皮膚を強力な磁石で12時間はさみ、圧迫を加えることで褥瘡をつくるモデルを用い、そのモデルマウスに硫化水素ガスを連日吸入させるという実験を行っています。その結果、硫化水素ガス吸入療法には褥瘡の治癒促進効果があることが明らかになりました。この研究結果を基盤として、住友精化工業株式会社とともに令和元年度の沖縄県化学技術イノベーション構築事業に採択して頂き、産官学で硫化水素ガスを用いた皮膚創傷治癒に対する創薬を目指す研究を行っているところです。(図7)

最後に沖縄県の麻酔医療事情について述べさせていただきます。これまで沖縄県内では、麻酔科医の育成として琉球大学医学部麻酔科ならびにその関連病院と沖縄県立中部病院が主に行ってきました。沖縄県内には北部・離島も含めて全身麻酔下に手術を行っている施設が20施設ほどあります。琉球大学医学部麻酔科ではそのうち13施設に常勤麻酔科医師を送っています。これまでは、琉球大学医学部麻酔科がこの13施設個々の人員不足に対し対応をしていましたが(図8)、各施設で同時に複数の麻酔科医が退職することになるとまとまった人数が大学附属病院から抜けることになり、これにより慢性的な人員不足になる事態がおこっていました。このような事態は単なる麻酔科医師の不足のみならず、過重労働、医療事故につながりその先には麻酔科志望の人員不足に至るといった負のスパイラルに陥る危険性が潜んでいます。この事態を解消すべく、沖縄県の5つの県立病院麻酔科とともに、それぞれの人員不足を他の病院の麻酔科医が補うという“互助的”システムを開始しました。これは例えば、沖縄県立中部病院で人員不足が出た場合、他の4病院で中部病院の当直業務のサポート(週に1日程度)や手術の少ない曜日に中部病院に応援に行くというシステムです。その他に、県立北部病院では経験できない周術期管理(例えば開心術)を、週に1症例の割合で麻酔管理を研修するなど含まれます。このシステムは、各病院のパフォーマンスを下げない(麻酔科医師がいないことで手術件数が減少することを回避する)ことのみならず麻酔科医の負担軽減、相互交流によるシームレスな運営、さらには各病院の状況理解につながり、これまで存在した各県立病院の壁を取り払うことで大きな集団として沖縄県の麻酔医療を支える大きな一歩になると考えています。

これから琉球大学医学部麻酔科のみならず、沖縄県立病院群さらにはそれ以外の病院群でこれまで以上に相互交流・相互理解を深めより強力な基盤の沖縄県麻酔医療を構築していきたいと考えております。

浦添市医師会の皆様には、今後とも琉球大学医学部麻酔科の活動にご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。



図1

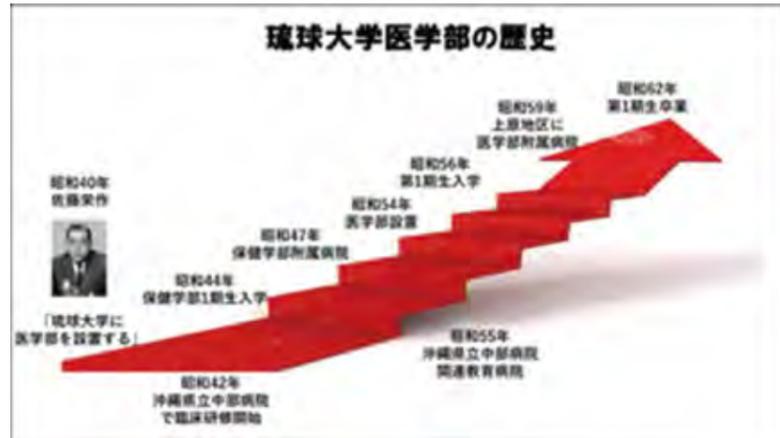


図2

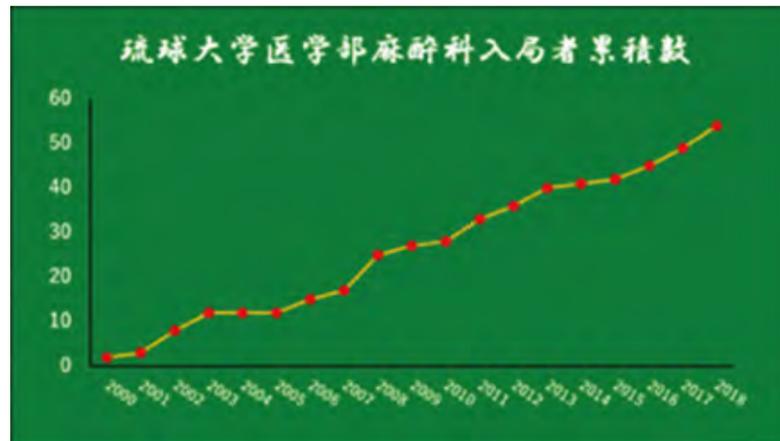


図3

### 新入局員の確保には“教育”が重要

- 学生病院実習では、全身管理のおもしろさを教える！
- 初期研修医には、実践とフィードバックの繰り返し！
- 後期研修医には、麻酔科学の伝道師になってもらう！

図4

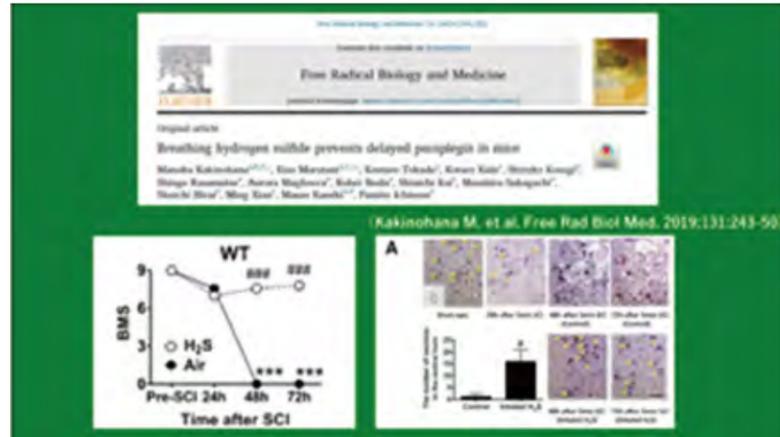


図5



図6

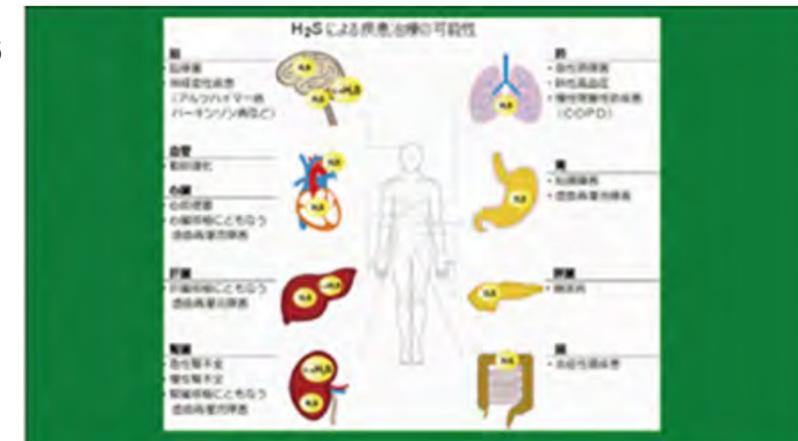


図7

### 沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業

## 生体内ガス分子硫化水素ガスを用いた皮膚創傷治癒促進への応用と研究

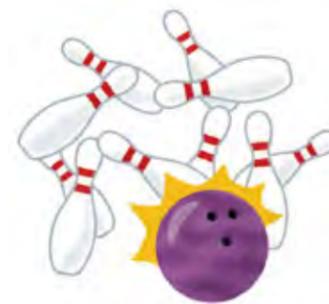
プロジェクトリーダー  
 国立大学法人 琉球大学大学院医学研究科 麻酔科学講座  
 垣花 学

図8





# 第30回 浦添市医師会ボウリング大会



日時:令和元年8月23日(金)19時スタート  
場所:てだこボウル

浦添市医師会事務局

去る8月23日、恒例となっております第30回浦添市医師会ボウリング大会を開催いたしました。今年もてだこボウルの4階フロアを貸し切り、総勢14チームの皆様にご参加いただきました。

開会に先立ち、池村剛浦添市医師会長よりご挨拶があり、昨年男子1位の嶺井第一病院天久慎涼さんによる始球式でゲームがスタートしました。

今回初めて参加するチームや毎回ご参加いただいている常連チーム、普段から練習して上位を目指しているチーム等、皆さん和気あいあいと楽しまれていました。

ボウリング終了後は1階の居酒屋へと場所を移し、成績発表と表彰式を行いました。チーム優勝は嶺井第一病院、男子1位は同仁病院の西江さん、女子1位は昨年に引き続き浦添総合病院健診センターの多和田さんに輝きました。

毎年ボウリング大会の日程確認のお問い合わせをいただくなど、皆さんがとても楽しみにされている様子が伝わり、事務局としても力が入ります。来年のボウリング大会は令和2年8月21日(金)を予定しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております!



池村 剛浦添市医師会長の開会挨拶



昨年の男性の部1位  
嶺井第一病院 天久さんによる始球式



講演の様子



講演後には様々な質問や感想が飛び交いました



親睦会の様子





皆さん和気あいあいととても楽しそうです♪



特別賞は名嘉村クリニック在宅チームの宮城征四郎先生でした。おめでとうございます！

女性の部1位は浦添総合病院健診センターの多和田さん(受取は代理の方)、男性の部1位は同仁病院Aチームの西江さんでした。おめでとうございます！



団体優勝は嶺井第一病院Aチームの皆さん！いい笑顔ですね♪ おめでとうございます！

団体2位は、かりまた内科医院の皆さん、3位は同仁病院Aチームの皆さんでした♪おめでとうございます！

## 第30回浦添市医師会ボウリング大会成績表

令和元年8月23日(金)

団 体	優 勝	嶺井第一病院 A
	2 位	かりまた内科医院
	3 位	同仁病院 A

男 子	1 位	西江 昂平	同仁病院 A
	2 位	天久 慎涼	嶺井第一病院
	3 位	泉 文勝	かりまた内科医院

女 子	1 位	多和田まき	浦添総合病院健診センター A
	2 位	田原 盛子	嶺井リハビリ病院
	3 位	當銘 梨穂	同仁病院 A

大会賞	30 位	宮城知恵美	嶺井リハビリ病院
ラッキー7賞	7 位	又吉 努	牧港クリニック
ブービー賞	69 位	知念真紀子	パークレーレディースクリニック
敢闘賞	68 位	上原 清美	浦添中央医院
特別賞		宮城征四郎	名嘉村クリニック在宅チーム
とび賞	5 位	知花 進	牧港クリニック
	15 位	當銘 梨穂	同仁病院 A
	25 位	仲里 政泰	名嘉村クリニック在宅チーム
	35 位	宮城 裕子	名嘉村クリニック在宅チーム
	45 位	国吉コウタ	同仁病院 B
	55 位	新川 尚子	浦添中央医院



# 浦添市在宅医療ネットワーク第12回総会

浦添市在宅医療ネットワーク事務局

日時:令和元年5月22日(水)19:30~20:00

場所:浦添市医師会事務局

司会:医療・介護連携コーディネーター

- 第1号議案 平成30年度事業報告及び決算に関する件
- 第2号議案 令和元年度事業計画及び予算案に関する件
- 第3号議案 令和元年度症例検討会担当表について

## 1.代表世話人挨拶

浦添市在宅医療ネットワーク代表世話人の山里将進氏から、第12回総会の開会挨拶が行われた。

## 2.議長選出

山里将進代表世話人より、議事の進行を行う旨の提案があり、異議なく了承された。

## 3.議事

### 第1号議案 平成30年度事業報告及び決算に関する件

山里将進代表世話人から平成30年度事業報告が行われた後、大瀨篤世話人より世話人会や意見交換会の開催が困難になっていると課題提起頂く。世話人会及び多職種意見交換会の症例提供について平良雅裕世話人より症例提供できない世話人もいるのではないかと意見を頂く。山里将進代表世話人より、今後は世話人が負担にならない方向性として、高齢者の疾病で多い皮膚や精神の専門の先生を講師として呼びし、講演会開催や世話人の方々の困っていることの相談や情報共有の場として行いたいこと、また意見交換会は医療介護連携推進事業で開催していきたいとのご説明を頂く。

その後、監事の狩俣陽一世話人から去る令和元年5月16日に「元帳、領収書、現金及び預金を照会した結果、正しく処理されていました」と監査報告が行われた。大瀨篤世話人より旅費交通費は事務局2名分も含まれていると補足説明を頂く。各世話人より異議なく承認された。

### 第2号議案 令和元年度事業計画及び予算案に関する件

山里将進代表世話人から令和元年度事業計画及び予算案に関して説明が行われた後、引き続き山里将進代表世話人から予算案についての説明が行われ、各世話人より異議なく承認された。

### 第3号議案 令和元年度症例検討会担当表について

山里将進代表世話人から令和元年度症例検討会担当表についてご説明を頂く。

大瀨篤世話人より浦添市認知症ネットワーク世話人会では医師とメディカルスタッフが参加している。これまでは当会は世話人会と多職種意見交換会を交互に行ってきたが、今年度は世話人会のみの開催となるのかとご意見頂く。山里将進代表世話人よりこれまで世話人会、多職種意見交換会を交互に開催を行ってきたが在宅医療の医師や事務局の負担になっている状況である。当市に関しては、顔の見える関係づくりができつつあるため、意見交換会は在宅医療・介護連携推進事業で開催していきたい。世話人会の内容を保険請求等をしっかりして厚生局の指導に付かれないような体制をとっていきたい。

平良雅裕世話人より症例提供者には3ヵ月前には確定してほしいとのご意見頂く。山里将進代表世話人より世話人会の日程を固定してはどうかと提案あり、各世話人から承諾あり。世話人会の開催日程について事務局よりアンケート調査を実施することとなった。

山里将進代表世話人より、那覇市の在宅診療を行っている先生方と合同勉強会の提案があり、世話人より異議なく承認された。

## 4.その他

訪問診療、訪問看護、訪問マッサージについて意見交換が行われ、世話人全員で情報共有を行った。

以上、全ての議案についての審議が終了した。



代表世話人 山里 将進 先生



総会の様子



親睦会の様子

# うらそえ多職種親睦会2019 報告

浦添市在宅医療・介護連携支援センター うらっしー事務局

日時:令和元年5月31日(金)15:00

場所:浦添市てだこホール市民交流室

去る5月31日(金)浦添市てだこホール市民交流室にて、第4回目となる「うらそえ多職種親睦会2019」を開催いたしました。昨年度に引き続き、医療介護ネットワーク2025・うらそえ介護福祉士会・浦添市介護支援専門員連絡会・当会を含め、4つの関係団体との共催で開催いたしました。

前回の開催では、台風の影響を受け当日は大荒れとなったこともあり、実行委員会で検討した結果、今回の開催は台風の少ない5月に開催することになりました。また、内容についても2部構成で企画を行い、第1部は講演会、第2部は親睦会という形で開催致しました。

第1部講演会では、「仕事に向き合う、人に向き合う、自分に向き合う」と題して、トリニティ社長(沖縄大学 人文学部 准教授)の樋口 耕太郎氏にご講演を賜りました。

樋口氏は、岩手県盛岡市出身で、サンマリーナホテル(沖縄)を取得・再生したことをきっかけに価値観を大きく転換され、現在は人間中心・愛の経営による事業再生会社トリニティを設立し、沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科准教授としても、人と社会の幸せを考える「幸福論」を担当し活躍されている方でもあります。当日はご自身の体験談から「仕事、人、自分に向き合うことの大切さ」について深みのあるご講演を頂き、参加者は真剣に耳を傾けておりました。講演会の最後には共催者を代表し、藏下 要先生(医療介護ネットワーク2025分科会Aサブリーダー)にご挨拶を頂き、無事に第1部講演会が終了致しました。

続いて第2部の親睦会では、池村 剛浦添市医師会長によるご挨拶で幕を開け、医療介護ネットワーク2025 福本 泰三委員長に乾杯の音頭をとって頂きました。

歓談時は、食事をとりながら名刺交換や交流を行うなど、会場内は常に賑わいをみせていました。途中、事業所紹介&各関係機関からの1分間PRタイムがあり、多くの事業所よりPRを頂きました。特に盛り上がったのが、親睦会の1番の目玉であります、「心に残る名刺交換大会・お楽しみ福引き抽選会」です。司会のうらそえ介護福祉士会の与那覇 涼さん、ノダ 知加子さんに実演を交えて大会の説明をして頂き、会場を大いに盛り上げて頂きました。心に残る名刺交換大会は、特別賞として浦添市医師会長賞、医療介護ネットワーク2025委員長賞、樋口賞を設け、池村 剛会長、福本 泰三委員長、樋口 耕太郎氏に一番心に残る名刺交換を行った人に賞が与えられる大会です。参加した方々は、特別賞を取るために我こそはと必死になり名刺交換を行っておりました。また、お楽しみ福引き抽選会では、

「1等 旅行券」、「2等 叙々苑のお食事券」、「3等 ノボテル沖縄那覇ギフト券」、「4等 サンエー商品券」、「5等 アマゾンカード」と前回に引き続き豪華な景品をご用意し、会場が大いに賑わいました。最後に、浦添市介護支援専門員連絡会 志良堂 幸次会長にご挨拶を頂き、今年度のうらそえ多職種親睦会は幕を閉じました。

今回も4者共催ということで、企画から実施までスムーズに取り組むことができましたが、用意していたお食事が足りず、一部の皆様にお食事を召し上がっていただくことができませんでした。この場をお借りしてお詫び申し上げます。次年度は今回のようなことが起こらないよう実行委員会で十分に協議し、参加した皆様が楽しめるような親睦会にして参りたいと思います。

来年の5回目の開催も、4者共催で開催することが決定しており、日程は令和2年6月12日(金)に、AIM・ユニバース浦添市てだこホール市民交流室にて開催予定でございます。参加して頂く皆様が楽しく交流できるよう、引き続き実行委員会で企画して参りますので、来年の親睦会へのご参加もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 【今回の参加者内訳】

- ・第1部講演会:125名
- ・第2部講演会:167名
- ・第1部・2部両方参加者:90名

## <第1部 親睦会>



司会の安保 奈緒 氏



講師の樋口 耕太郎 氏



医療介護ネットワーク2025A分科会サブリーダー藏下 要先生



講演会の様子

<第2部 親睦会>



司会のうらそえ介護福祉士会  
与那覇涼さん、ノダ知加子さん

池村剛浦添市医師会長、松本哲治浦添市長、  
福本泰三浦添総合病院院長よりご挨拶を賜りました



お楽しみ抽選会の様子

親睦会の様子



スタッフの皆さま、お疲れ様でした!

# 第55回 浦添市医師会ゴルフコンペ



日時:令和元年9月23日(月・祝)8:00  
場所:琉球ゴルフ倶楽部



平安病院 法人統括院長 臨床研修センター長 平安 良雄

令和に入り最初となる浦添市医師会ゴルフコンペが、9月23日(月)に琉球ゴルフ倶楽部で開かれました。天候に恵まれ、和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しいラウンドになりました。

コンペの結果は、優勝とベストグロス賞は辺士名仁先生、準優勝は池村剛医師会長。ラッキーセブン賞(7位)は源河朝博先生、ブービー賞は銘苅晋先生が受賞されました。ドラコン賞は福本泰三先生が2本、池村剛先生と崎浜教之先生がそれぞれ1本。ニアピン賞は仲宗根豊先生、多々羅靖弘先生、平安が1本ずつ獲得しました。

世の中の事情と共通で、浦添市医師会ゴルフコンペも若い世代の参加者がなく、次世代を思うと寂しい状況になってきました。趣味の多様化や休日の過ごし方にも世代差があるのかと思います。次回は令和2年3月20日(金)春分の日に予定されています。会員の皆さま、特に若い世代の方々の参加が望まれます。ぜひともお誘いあわせの上、ご参加いただけますと幸いです。

私は平成30年4月に帰沖し、浦添市医師会に加入させていただきました。それ以来、医師会ゴルフコンペには毎回参加させていただいています。ゴルフを楽しむことはもちろんですが、医師会の先生方とラウンドを通して交流ができ、とても有意義です。本格的にゴルフを始めてまだ1年半ですが、今回は同伴競技者に恵まれ、3位!になりました。また、3位になると、医師会誌にコンペの報告を書かせていただけることがわかりました。次回も3位を、いや、どうせなら優勝を狙って練習していこうと思っています。もし、優勝したら、3位の先生にお願いして、この報告を書かせていただきたいと思っています。



「延ばそう健康寿命  
～頭もからだも若々しく!!～」



主催：浦添市医師会  
共催：浦添市、沖縄タイムス社  
沖縄県医師国民健康保険組合助成事業  
日時：令和元年10月5日（土）  
場所：浦添市てだこホール市民交流室

広報・会員親睦担当理事/座長 藏下 要

今回、令和になって初めて開催されたうらそえ市民公開講座はおかげさまで第21回目を数えるに至りました。前回、前々回は「いっしょに考えよう人生のゴール」をメインテーマとして、1回目は“自分らしく生ききるために”、そして翌年のPart2では“アドバンス・ケア・プランニング（ACP）ってなんですか？”のサブタイトルで、人生の最終段階をどう自分らしく生き、そして自分の最期についてどうありたいかを家族と共に話しあい、伝えていくことの大切さを市民の皆様と共に学んできました。これらを踏まえた上で、今回はがらりと視点を変えて、人生の後半をいかに健康に生きていくか、すなわち“健康寿命をいかに延ばすか？”ということをメインテーマにしました。

2017年調査の全国平均で、日本人の平均寿命は男性 81.09歳、女性 87.26歳であり、一方“心身ともに健康で、介護を必要とせず、日常生活に制限なく自立して生活できる期間”＝健康寿命は男性 72.14歳、女性 74.79歳となっています。平均寿命と健康寿命の差、すなわち要介護状態の期間が、男性で8.95年、女性で12.47年あるということになります。要介護に最も影響を与えている要因が「認知症」であり、今後益々増加していくことが予想されているため、認知症予防対策はとても重要であり、市民の関心も高いだろうとの判断で今年のメインテーマとして取り上げました。タイトルの決定段階では実行委員会ではいろいろな案が出され、その中でメインタイトルに「認知症」という言葉そのものを入れるのは、少しネガティブなイメージがあって、会場へ市民の足が向かないのではないかと意見がありました。そこでメインタイトルの中に「認知症」という言葉を入れずに、認知症予防の話だとわかるようなタイトルにしたいとの基本方針で議論を行い、最終的に「延ばそう健康寿命 ～頭もからだも若々しく!!～」がメインタイトルに決まりました。

第I部の基調講演は前半で稲福内科医院の稲福徹也先生に「脳の健康維持について」のタイトルでご講演していただきました。2019年にWHOから出された認知症予防に関するガイドラインもとにわかりやすくお話があり、①健康寿命を延ばすには脳の健康維持も大切、②脳の健康維持は40歳から始める、③認知症のリスクを軽減するために、運動と食事そして禁煙、血圧管理、糖尿病の管理が大切、とまとめていただきました。基調講演の後半では名嘉村クリニックの山川いずみ先生に「コグニサイズで楽しく認知症予防」と題してご講演していただきました。「コグニサイズ」とは「コグニッション（認知）」と「エクササイズ（運動）」をかけ合せた造語で、頭で考える認知課題と体を動かす運動課題を同時に行うことで脳と体の機能を効果的に向上させるプログラムです。講演の中であった、健常者と軽度認知症の間の段階であるMild Cognitive Impairment (MCI: 軽度認知障害) の状態だと、コグニサイズを行うことで健常者への回復率が14～44%あるというお話は非常に興味深いものでした。また自施設で行われているコグニサイズプログラム実践の動画も見せていただき、会場の皆さんはより理解が深まったのではないかと思います。

基調講演の後の第II部では、名嘉村クリニック看護師でコグニサイズ指導者の屋良利枝さんを講師として会場の皆さん全員でコグニサイズの実演を行いました。引き算を続けなが



辺土名仁先生優勝おめでとうございます!



準優勝の池村剛会長、おめでとうございます!



3位の平安良雄先生、おめでとうございます!



ニアピン賞の仲宗根豊先生、ラッキー7賞の源河朝博先生。おめでとうございます!



第55回浦添市医師会ゴルフコンペ(R1.9.23)



優勝	辺土名 仁	みどり耳鼻咽喉科	ベストグロス賞
準優勝	池村 剛	池村クリニック	ドラコン賞
3位	平安 良雄	平安病院	ニアピン賞
4位	崎浜 教之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科さきはまクリニック	ドラコン賞
5位	仲宗根 豊	なかそね内科・循環器科	ニアピン賞
6位	平良 勝彦	丸勝中央クリニック	
7位	源河 朝博	げんか耳鼻咽喉科	ラッキーセブン賞
8位	福本 泰三	浦添総合病院	ドラコン賞
9位	多々羅靖弘	浦添中央医院	ニアピン賞
10位	銘苅 晋	浦添総合病院	ブービー賞
11位	洲鎌 盛一	牧港中央病院	ブービーメーカー賞

ら手足を動かしたり、数を数えながら3の倍数の時だけ手をたたいたり、とにかく頭を使いながら、いろんな動作を行うというもので、壇上に上がっていただいた副会長の洲鎌盛一先生も「間違えた、結構難しかった」とのご感想でした。実演中の会場内はとても活気があり、途中で間違えて笑いがとび出すなど、参加者の皆さんは大盛り上がりで楽しく時を過ごされた様でした。

第Ⅲ部では稲福徹也先生、山川いずみ先生、屋良利枝さんをパネリストにしてパネルディスカッションを行い、会場の皆さんのご質問に答えていく形で認知症予防についてより理解を深めていきました。今回は約250名の市民の皆さんにご参加をいただき、会場からは本当にたくさんのご質問をいただきました。ある方からは「このようにたくさん質問用紙が寄せられる市民公開講座はあまり見たことがない」とのお声もいただき、参加された市民の皆様にとって関心の高い、有意義な市民公開講座になったのかと、医師会スタッフ一同とても嬉しく思った次第であります。

来年度もまた市民目線で、参加される皆さんに喜んでいただける市民公開講座を企画していきたいと思っております。今後とも医師会会員の皆様のご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

第21回 | うらそえ市民公開講座に参加して



稲福内科医院 院長 稲福 徹也

この度は、第21回うらそえ市民公開講座に参加させていただき大変光栄に存じます。始まる頃には会場が満席で埋め尽くされ、市民公開講座への関心の高さに驚きました。また最後まで目を輝かせて注目して下さる市民の視線に緊張しました。準備のために3回位集まりスライド内容をチェックしながら演者を含めスタッフ全員で、聴衆に興味を持ってもらうにはどうしたらよいかを真剣に議論している点が成功に結びついていると感じました。自分自身も「脳の健康維持について」について調べる機会を頂き大変勉強になりました。認知症予防には食事(地中海食)と運動、リスク管理(禁煙、血圧・糖尿病管理)、そして社会参加が欠かせないことを知りました。今後も市民目線の公開講座が続くことを期待します。

第21回 | うらそえ市民公開講座に参加して



名嘉村クリニック 医師 山川 いずみ

令和元年10月5日に第21回うらそえ市民公開講座で「延ばそう健康寿命～頭もからだも若々しく!!～」というテーマのもと、私は「コグニサイズで楽しく認知症予防」と題してお話しさせていただきました。200名あまりの市民の参加があり、関心の高さに驚きました。コグニサイズとは、運動と認知課題を同時に行う、認知症予防を目的とした運動プログラムで、愛知県の国立長寿医療研究センターで開発されました。運動や認知課題を同時に行う時に、運動の方法や認知課題を時々間違えながら楽しくコグニサイズを行うことで、認知機能の衰えを抑制し認知症の発症を遅らせることにつながる可能性があります。講座ではコグニサイズの実践も楽しい雰囲気で行われました。もの忘れが気になる方の生活にぜひコグニサイズを取り入れて、健康寿命を延ばしていただきたいと思います。この度、このような貴重な機会を与えてくださった浦添市医師会役員、スタッフの皆様にお礼申し上げます。

第21回 | うらそえ市民公開講座に参加して



名嘉村クリニック 老人看護専門看護師 屋良 利枝

今回、コグニサイズの実演、シンポジストとして参加させていただきましたことに、心より感謝いたします。健康に歳を重ねたいという願いは、誰もが持っており、今回の参加者が200人を超えたということから、健康寿命に対する関心の高さがうかがえます。

「コグニサイズ」を参加者の皆様と一緒に実践し、楽しい時間を共有する事が出来ました。運動に限らず、笑うことは本人も周りの人たちも幸せな気持ちになります。楽しみながら健康に歳を重ねていくことが豊かな晩年につながります。認知症に限らず健康について正しい知識を持っていただき、生活の中に上手に取り入れてもらえるようこれからも活動を続けたいと思います。

第21回 | うらそえ市民公開講座に参加して



FM21株式会社 パーソナリティ/座長 城前 ふみ

「頭もからだも若々しく健康に年を重ねたい…」こうした願いはどなたでもお持ちであるかと思えます。このたびは開演前から会場が満席になるほどで、皆様の健康寿命への関心の高さを知ることができました。

今回のテーマは「コグニサイズ」。コグニサイズとは、頭で考えるという意味のコグニションとエクササイズを組み合わせた造語です。最近の研究では、体と同時に脳も一緒に使うことが、より効果的であると分かってきました。

足踏みをしながら計算をするなど、コグニサイズを実践し、会場は笑いにつつまれ、大いに盛り上がりました。

今回で6回目の座長を引き受けさせて頂きました。このような催しに携わらせて頂き、まことにありがとうございます。



開会挨拶の池村剛浦添市医師会長、松本哲治浦添市長のご挨拶、稲福内科医院 院長 稲福徹也先生のご講演、名嘉村クリニック 山川いずみ先生のご講演



数を数えながら運動を行います。3や5の倍数の時に手を叩いたり上に上げたりしますが、これが意外と難しい・・・!



座長の浦添総合病院 副院長 藏下要先生と FM21パーソナリティ城前ふみさん、演者の皆さん お疲れ様でした!

# 浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー 市民公開講座 報告

浦添市在宅医療・介護連携支援センター うらっしー事務局

日時:令和元年11月16日(土)14:00

場所:AIM・ユニバース てだこホール市民交流室

去る11月16日(土)に、「知っ得!入院するとき退院するとき~住み慣れた地域で安心・安全に暮らすための入退院支援~」と題して、令和元年度浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座を開催致しました。当日は約160名あまりの参加者にご来場いただきました。

我が国は、2025年には75歳以上の後期高齢者が約2,180万人になると予想され、4人に1人が後期高齢者という超高齢社会を迎えます。高齢者の単身世帯、夫婦のみの世帯が増加するなどの理由で家庭内の介護力が弱まっていることから、定期的に通院できず、病気が重症化してから救急搬送されて入院、治療が終わっても住宅環境が整っていないなどの理由で退院できないという現状が起こっています。今回、市民公開講座を開催するにあたり、浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー運営委員会で協議を行った際に、地域住民の生活を支える専門職同士の連携やお互いの立場を理解・尊重し、協力し合うことも必要であるが、地域住民の方々にも入院前や退院後に必要なことや心構えなど事前の情報を発信することが必要ではないかとの思いから、今回の市民公開講座のテーマを「入退院支援」に決定いたしました。

I部基調講演では、樋口美智子氏(沖縄国際大学 総合文化学部人間福祉学科 准教授・一般社団法人 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 会長)より、「地域で取り組む入退院支援」と題して、入退院時の心配ごと(いのちとこころとくらしの問題)、入退院の仕組みのこと(制度・サービスを知り活用する)、入退院を機会に話し合うこと(本人の意向を尊重し地域で支える)の3点についてわかりやすく丁寧に参加者にお伝えしていただき、具体的にイメージしやすく理解が深まる内容でご講演いただきました。

II部のパネルディスカッションでは、各パネリストがスライドを交えながら講話し、会場からの質問等を取り入れながらパネルディスカッションを行いました。講話の内容として、新川明美氏より急性期病院の役割、入退院支援の流れや取り組みや意思決定支援についてのお話について、井上美枝子氏より急性期病院から回復期病院への転院の流れや、疾病の種類(整形、脳性麻痺等)、疾病別の入院日数や介護保険申請の件や、地域包括支援センターや介護支援専門員との関わりについてお話頂きました。池間大輔氏より地域包括支援センターの役割や行政との関わり、特に入院中の介護保険申請の問題等や要支援1、2の

の代理申請の流れや、総合事業について事例も交えながらお話して頂きました。平良和己氏より入院支援における介護支援専門員の役割についてのお話、屋宜亮兵先生より退院前からの関わりについて、病院から在宅へ移行する際の連携、在宅支援での法人の取り組み(在宅診療や訪問看護の立場で)についてお話頂きました。また、会場から頂いた沢山の質問にお答えし、充実した内容でパネルディスカッションが進みました。最後に座長の山里将進先生から「歳を重ねるごとに病気や介護に向き合うことが多くなります。今のうちから今後の起こりうる入退院について考え、家族と一緒に入退院について話し合いを持ち、自分がどう生きたいか、将来こうしたいという思いや考えを家族に伝えておくことが大切であり、病院の機能や役割についても理解することも大切です」とお言葉を頂き、参加者の皆さまのお陰で盛会のうちに市民公開講座を終えることができました。当日のアンケート結果につきましては、うらっしーホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

今回の市民公開講座の開催にあたり、総合司会をお引き受けくださいましたうらっしー運営委員の金城理佳委員を始め、ご協力いただきました多くの皆様に心より感謝を申し上げます。



総合司会の金城理佳氏



会場の様子



樋口美智子氏によるご講演



パネルディスカッションの様子



演者の皆さま お疲れさまでした!

# 浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー 多職種連携研修会 報告

浦添市在宅医療・介護連携支援センター うらっしー事務局

日時:令和元年11月28日(木)14:00

場所:アイム・ユニバース浦添市てだこホール市民交流室

去る11月28日(木)、令和元年度 多職種連携研修会<浦添市介護支援専門員従事者研修>、「入退院支援について~医療と介護お互いの機能を知ることによって利用者・家族が安心・安全に入退院できるように私たちができること~」を開催致しました。当日は、天候にも恵まれ、86名の多職種の皆様にご参加頂きました。

今年度の多職種連携研修会は、「入退院支援」をテーマとし、浦添市地域包括支援センターと合同で開催致しました。研修会に向けて調整を行う中、入退院支援については、医療側と介護側がお互いの機能を知ることによりよい連携に繋がり、利用者・家族が安心・安全に入退院できるのではないかとこの意見から、今回のタイトルとサブタイトルが決まりました。研修会の内容については、医療側から入退院支援に係る各病院機能や取り組みの紹介、課題について、介護側からは、入退院に係る介護支援専門員の役割の紹介や課題についてご報告を頂き、その後、「利用者・家族が安心・安全に入退院できるように私達ができること」をテーマとした、ワールドカフェ形式でのグループワークを行うことに決まりました。

当日は、医療側から浦添総合病院、牧港中央病院、嶺井第一病院、平安病院の市内4つの病院よりご報告を頂き、介護側からは、居宅介護支援事業所のネイバーフードケアマネジメント&ソーシャルワーク、浦添市地域包括支援センターみなとんよりご報告を頂きました。グループワークでは、「各病院の機能が知れてよかった」、「市民へ入退院支援の普及啓発も大切」、「普段から顔の見える関係づくりが重要」などと言った意見があがりました。時間の都合上、グループワークの発表が1グループとなってしまい、次回への課題も残りましたが、とても活発なグループワークができたのではないかと思います。

今回の研修会は浦添市地域包括支援センターとうらっしーとの初の合同開催ということもあり、至らない部分もあったかと思いますが、日常診療や業務でお忙しい中ご報告頂きました皆様、また、当日ご参加いただきました皆様へこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。また、来年度以降も、浦添市地域包括支援センターをはじめ、地域の関係機関との合同開催を行い、より内容の濃い研修会を企画していきたいと思っておりますので、関係機関の皆様におかれましては、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## <司会進行>

高志保 慎一  
(浦添市地域包括支援センターていだ 管理者)



開会挨拶の  
宗像裕子氏



司会の  
高志保 慎一氏

## <開会の挨拶>

宗像 裕子  
(浦添市地域包括支援センターさっとん)

## <医療側からの報告>

小橋川 嘉泉 先生 (浦添総合病院 医師)  
古波鮫 美智子 氏 (牧港中央病院 看護師)  
仲地 正壽 氏 (嶺井第一病院 認定看護管理者)  
新垣 香織 氏 (平安病院 地域支援科 科長)



小橋川嘉泉先生



古波鮫美智子氏

## <介護側からの報告>

□浦添市居宅介護支援事業所  
平良 和己 氏  
(ネイバーフードケアマネジメント&ソーシャルワーク 代表)  
□浦添市地域包括支援センター  
名嘉 健二 氏  
(浦添市地域包括支援センターみなとん 管理者)



仲地正壽氏



新垣香織氏

## <総 評>

池村 剛 (浦添市医師会 会長)



名嘉健二氏



平良和己氏



総評の池村剛会長



グループワークの様子

次年度も多職種連携研修会の開催を予定しております。在宅医療と介護の連携構築は、日頃からの顔の見える関係づくりが第一歩となります。浦添市内に在勤する医療・介護・福祉職に携わる各種専門職の皆様のご参加をお待ちしております。



※研修会等のご案内やご報告等を随時「浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしーホームページ (http://www.urasshii.com/)」に掲載しております。

## 第61回 地区医師会連絡協議会 報告

会長会議／協議会

令和元年11月9日（土）17:40 ロワジュールホテル那覇

親睦ゴルフコンペ

令和元年11月10日（日）8:12 琉球ゴルフ倶楽部



会長 池村 剛

令和元年11月9日（土）第61回地区医師会連絡協議会が、那覇市医師会主催で「ロワジュールホテル那覇」において開催されました。地区医師会連絡協議会は各地区医師会の持ち回りで開催され、議題を募り採用された議題に各地区医師会の現状報告やご意見を発表し、情報交換と問題点の共有を図ることを目的としています。

協議の前に、那覇市医師会会長の山城千秋先生より挨拶があり、山城千秋先生の司会で協議会が開始されました。

今回は、提案事項として沖縄県医師会の安里哲好会長より「65才未満健康・死亡改善プロジェクト」についてスライドを使用して講演がありました。沖縄県では30才から60才までの働き盛りの人口における死亡率が全国でワースト上位にあり、この年代の健康維持に医療がどのように関わっていけるかがテーマとなっています。講演では、現状を踏まえ高血圧、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病の発症及び重症化の予防に力を入れる事が重要であると指摘されていました。

次に、那覇市医師会提案の「人材斡旋業者に関するアンケート集計結果」が協議会として上程され、那覇市医師会副会長の玉井修先生よりスライドを用いての提示がありました。斡旋業者には、良心的な業者だけでなく高額な報酬を要求するところもあり、また、入職後も色々なトラブルが発生し苦労された医療機関も少なくないとのことでした。この報告に各地区医師会から、斡旋業者の格付けを教えてくださいとの要望があり、多くの医療機関が人材確保に苦労している現状が浮き彫りになっていると思われました。協議会終了後は懇親会が開かれ、楽しく盛り上がった協議会になりました。

翌日は琉球ゴルフクラブでのコンペがあり、天気も体調も良く、楽しいゴルフができました。久しぶりにスコアは98で、100切りができました。だんだんと着実に下手になっているようですが、頑張って「来年も100を切るぞ」と言い聞かせ練習に励みます。



## 那覇空港航空機 事故対処部分訓練 報告



副会長 洲鎌 盛一

日時: 令和元年11月19日(火)14:00～16:00

場所: 那覇空港西側台風時避難用エプロン

那覇空港航空機事故対処部分訓練は、国土交通省大阪航空局那覇空港事務局が主催し行われた。航空機事故により多数の負傷者が発生したことを想定し救急医療救護活動に特化した部分訓練である。関係機関による相互の綿密な連携のもと、救急救護医療活動を適切かつ迅速に実施し、人命被害等の軽減に努めることを目的とする。参加機関は消防機関、医療関係、警察、自衛隊、その他協力隊、支援機関を合計し、62機関、参加人数は250名。車両約30台とヘリコプター2機で行われた。

訓練場内到着後、那覇市医師会事務局より、那覇市医師会、浦添市医師会、南部地区医師会が一つのチームで行動するように伝えられた。予定していた那覇市医師会からのリーダー的医師が参加できないため、急遽各医師会のまとめ役となった。急なことだったが、非常時のための訓練と考え直して支持に従った。

今回の各医師会のメンバーは医師2人、看護師3人、業務調整員3人だった。災害訓練自体が初めての人が大多数だった。また、トリアージ知識を持たないメンバーもいたため、とりあえずみんなを集めて自己紹介、簡単なオリエンテーションを行い、それから全体リーダーのDMAT隊長に挨拶など連携がスムーズに行えるよう配慮した。

訓練の結果としては、我々は第3救護所（緑色テント）に配置され、各メンバーとも初めての経験にしては、頑張って役目を終えることができました。ご苦労さまでした。

最後に、沖縄県医師会主催の災害医療研修プログラムは現実の災害活動に役立つ内容ですので、万が一の災害医療に備え、ぜひ研修への参加をよろしくお願い致します。



## 令和元年度那覇空港航空機 事故対処部分訓練へ参加して



医療法人八重瀬会 同仁病院 看護師 榎本 綾子

11月19日、那覇空港での航空機事故を想定した訓練に参加させていただきました。

数日前に職場の上司に「航空機事故の訓練が那覇空港であるから参加してみない？」と声掛けをしてもらい「面白そうですね、参加したいです」と簡単に軽く返事をしてしまったことを後悔することになるとは、その時は思いもしませんでした。

もともと慢性期の病棟勤務が長かった私は、救急医療や災害医療に少しでも興味を持ちながらも気付かないふりをして目の前の仕事をしている日々だったので、航空機事故を想定した訓練は興味深いものでした。私の想像では、浦添市内の各病院から看護師がそれぞれ1名ずつ参加してみんなで一緒に訓練に参加する・・・というイメージでした。しかし、いざ訓練の前日になり浦添市医師会からの連絡を受けたら、浦添市医師会の看護師代表が同仁病院看護師榎本という感じになっていました。それまでイメージしていた大人数ではのぼの訓練参加というイメージが崩れ去り「浦添市医師会の代表の看護師」となる大きなプレッシャーが私に一気に舞い降りてきました。救急医療を経験した事がない私が浦添市の代表になるなんて・・・考えるだけで不安と緊張で眠れなくなりました（前日に気付いたのである意味眠れないのは1日だけで済みました）。

訓練当日、浦添市医師会のチームとして一緒に行動する牧港中央病院の洲鎌先生、浦添市医師会の業務調整員の下地さん、写真係の山里さんと私の4名で那覇空港に向かいました。

那覇空港の訓練会場に到着して更に緊張が高まりました。自衛隊、消防、警察、赤十字、DMATの方々それぞれのスペシャリストを前にして小さくなってしまいました。

空港ならではの騒音の中、聞こえないながらも訓練の説明を聞き、患者役の医療系の学生さんたちの「きゃー!!!」という悲鳴が聴こえて訓練が開始されていきました。

浦添市医師会、南部地区医師会、那覇市医師会の3つの医師会で緑色の救護所の担当となりました。トリアージタグを見るのも初めてだった私は、緊張のあまり患者さんばりに顔色が悪かったのではないかと思います。軽症と判断された患者さんを医師が診察しながら、看護師、業務調整員の3名で患者さんの話を聞いて対応していましたが、途中で医師が他の救護所に呼ばれて行ってしまい不在となりました。その時点で医師に守られていた私は、看護師として自分で患者さんの問診をとらなくてはいけなくなりました。緊張しながらも頭

の中で考え、この怪我だとどういった症状が出るか、この症状には特に気をつけるべきだ・・・などと頭を可能な限りフル回転させながらの問診となりました。想像しているよりも頭の回転が遅く患者さんとの対応も難しく、患者リストを作ってください業務調整員の方にも迷惑をかけてしまったと思います。一人の患者さんの聞き取りをしている時に、こっそりと救護所を抜け出そうとしている患者さんを引きとめたり、急に「看護師さん、うちのおばあちゃんがおかしいんです、今すぐみて下さい!!!」と、大きな声で言われたりして大混乱でした。優先順位もわからなくなってしまい、藁にもすがりたい気持ちでした。

慌てて騒ぐ患者さんを冷静に対応するという難しさ、身をもって実感しました。軽症の患者さんだと思っても状況は変わっていくので油断はできないという緊張感、子供や配偶者など家族を心配して落ち着かない患者さんの気持ちも考えないといけません。大人数が負傷するという救急の現場を目の前にして、訓練とはいえ実際自分は何ができたのか・・・考えると反省しかありません。事故現場で患者さんにとって貴重な「看護師」という存在にも関わらず「ちょっと待ってください」を連発した自分を恥ずかしく思いました。救急の現場では役に立てなかった自分を深く、深く反省しました。自分のことで精一杯で患者さんの声に耳を傾けることができていませんでした。

この研修の話を受けた時に、面白そうだから参加したいと軽い気持ちで返事をしたのですが、訓練に参加する前に可能な限りで救急医療の流れを学んでから参加したら、もう少し動いていたのではないかとこんなに落ち込まないでよかったのでは、と思えて仕方ありません。

訓練自体は2時間で、緊張と混乱と反省している間にあっという間に終わってしまったのですが、とても貴重な経験でした。何年かに1度、同仁病院に浦添市医師会代表で訓練に参加の依頼が来るらしいのですが、次回新しい方にこの貴重な訓練の経験をしてもらいたいと思う反面、勉強したうえで参加したらきちんとした対応が自分にもできるのか試してみたいので、もう1度訓練参加に立候補したい気持ちとが葛藤しています。

何も知らずに不安な状態で参加するよりも、勉強して救急の流れを学んだうえで参加した方が絶対にスキルアップにつながる訓練だと思いました。数多くある浦添市内の医療施設の中から、浦添市の代表として参加させていただきありがとうございました。



# 令和元年 浦添市医師会忘年会

日時:令和元年12月11日(水)19:30開宴  
場所:ラグナガーデンホテル羽衣の間



会員親睦担当理事 藏下 要

新しく「令和」の時代に入って最初の忘年会が、去る2019年12月11日(水)にラグナガーデンホテルにおいて開催されました。浦添市医師会は地域に開かれた“みんなの医師会”というキャッチフレーズにふさわしく、今年の忘年会も浦添市医師会員のみならず、地域の医療・福祉の関係者、浦添市役所、教育員会と市議会の皆様、浦添市内の自治会や婦人会などの代表者にもご参加をいただき、総勢110名の賑やかな会となりました。司会は今年も会員親睦担当の藏下とFM21株式会社パーソナリティー 城前ふみさんの2人が務めさせていただきました。

洲鎌盛一副会長の開会の辞に続き、池村剛会長より会長挨拶と今年の事業報告がありました(事業報告で熱弁をふるう会長にいつものように時間を気にしながらハラハラする司会者2人でありました)。ご来賓の挨拶をいただいた松本哲治浦添市長からは今年あったびっくり体験のお話(紙面上では詳細は書けませんが・・・)があり、その後に乾杯のご発声をいただいた前参議院議員の儀間光男様からは「その体験を市民の健康増進のための政策に反映させていただきたい」とのお言葉がありました。

会場には今年も同仁病院ワイン部の赤嶺良光先生、山城惟欣先生、栗国克己先生の3人の先生プロデュースによるワインコーナーが設けられ、酒宴の席を盛り上げていただきました。また今年はステージでのバンド演奏をあえて設けず、浦添総合病院 外科医長の古波倉史子先生の演奏によるピアノの心地よい音色に癒されながら参加者の皆さんが自由にご歓談できるスタイルをとりました。皆様いかがでしたでしょうか?

今年のお楽しみ福引抽選会での抽選者(幸運の女神&男神)は、浦添市老人クラブ連合会会長の與那嶺良子様、浦添市自治会会長の神山高成様、浦添市議会副議長の松下美智子様のほか、医師会からは、今年のうちそえ市民公開講座で講演をいただいた名嘉村クリニックの山川いずみ先生、今年度新規入会された平安病院の勝連啓介先生(平成27年のうちそえ市民公開講座で活躍していただきました)と池村剛会長にお願いをしました。最後まで当たらなかった人、当たったけど大物を逃した人、ここまで残っていて良かったと大喜びの人、今年も悲喜こもごもの光景が見られました。そんな中、最後の大物にあたったのは何と副会長の洲鎌盛一先生。「せんせーい、私たち主催者側なんですけど〜」という声も届かず、洲鎌盛一先生の満面の喜びの笑顔を見ながら、来年からは司会者も抽選券を持っておこうかと思った次第であります。

そして最後に、令和の新しい時代、来年こそは大きな災害のないいい年になることを祈念したいとの銘苅晋副会長の閉会の辞で今年の忘年会は幕を閉じました。

会員の皆様、今年も大変お疲れ様でした。年明けの2月10日(月)には医師会員のみ密な親睦会である「旧正新年会」を開催いたします。忘年会に参加できなかった先生方も是非ご参加いただきます様よろしくお願いたします。



池村剛  
浦添市医師会長の挨拶



松本哲治  
浦添市長のご挨拶



前参議院議員 儀間光男氏より  
乾杯の音頭をいただきました



古波倉史子先生によるピアノの生演奏



同仁病院ワイン部の先生方今年も大好評でした♪



会場の様子



福引き1等は昨年に引き続き  
洲鎌先生が引き当てました!



皆さまおめでとうございます♪

## 会員寄稿

### 「65歳のとびら」

まえだクリニック 院長 今山 裕康



8月は私の誕生日で、今年65歳になりました。4月にはさっそく肺炎球菌ワクチン接種の知らせが届き、誕生日に介護保険被保険者証、その翌月に介護保険料納付書が送られてきました。否応なしに65歳以上前期高齢者の仲間入りです。予防接種の知らせが来ても肺炎球菌ワクチンのCMをみても自分にはまだまだ早いと思っていました。ところが、不思議なもので誕生日を過ぎると飲食時のムセが妙に気になりだし、これは早く打ったほうが良いかな、早く打っておかなければと思い、先日打ってもらいました。自分ではまだまだ若いと思う気持ちと老いは確実に進んでいると思う気持ちがあり惑わされています。

でも、年を取ると悪いことばかりではありません。以前は店で店員がもたついたり間違ったりすると「イライラ」して小言のひとつも言ったものですが、この頃は“新入りかな”とか、“緊張しているのかな”とか考え、“慌てなくてもいいよ”と思いながら「ありがとう」と言えるようになっていく自分に気が付くことがあります。年を取るとものの見方が変わっていくようで、渡辺淳一が「鈍感力」の中で人間年を取ったら鈍感になっていった方がよいと言っていたのを思い出し、鈍感力をつけるとは見方を変えることで、年を取ると自然に身につくものと思えます。

それはそうと、自分の更年期は終わったのかなと更年期障害についてちょっと調べていたところ、女性ホルモンのこと月経周期のことで意外なことを知りました。女性ホルモンにはエストロゲンとプロゲステロンがあり、月経周期には低温相と高温相があり、エストロゲンは低温相で優位になり子宮粘膜の増殖と排卵に関与し、プロゲステロンは高温相で優位になり受精卵の着床と基礎体温の上昇に関与します。ここで、エストロゲンに気分を落ち着かせる働きが、プロゲステロンに抑うつ状態を作りやすくしたり腸蠕動を抑制したり体に水を蓄えやすくしたりする作用があることを改めて知りました。

これで“ははーッ”なるほどと合点がいったことがあります。ある朝、ある女性にあいさつしたところ、無視されました。またあるときは、険しい顔をされ厳しい調子で返事されました。昨日まではなんともなかったのにです。“あッ、俺なんか悪いことしたのかなあ?”、“地雷踏んだのかな”と急に心配になり、気軽に「何があったの?」と聞くことも出来ず。不安のどん底に落とされるのであります。“どうしよう”“どうしよう”とオロオロするばかりで、勇気を出してこっそり他の誰かに聞いても「何もないはずですよ」と言われ、「あッ、そうなの」と返事はするものの、何がどうなっているのか分からず、不安はただただ大きくなっていくばかりでした。何日かすると何事もなかったような日が来て、“???”。

でも、解決、ホルモンの仕業だったのだと合点が行きました。これから女性の機嫌が悪い時は“触らぬ神に祟りなし”で過ごすことにします。

ところで、自分の更年期は……。まっ、いいかあ!!

## 会員寄稿 私の一曲

### 「私の好きな楽曲 花ヌカジマヤー（風車） —沖繩の心を奏でる—」



東産婦人科クリニック 院長 東 幸子



以前、私は、沖縄県立博物館で、沖縄の歴史に関連した展示会を観たことがあります。その時、ある中国の方が、中国の国王のお召し物は龍の爪が五つであるが、沖縄の国王のお召し物の龍の爪は四つである、なぜかと話していたのを思い出し、博物館の職員にその件についておききしました。すると、沖縄の国王は中国の国王に敬意を表し、謙遜をわきまえ、中国国王の龍の爪の五つより一つ少ない四つの爪にしたとの事でした。当時の歴史的背景がすぐに理解できました。今回は台湾展を観に博物館に行き、沖縄と台湾とその周辺諸国との、深い関係をとてもおもしろいと感じました。沖縄は歴史のうねりの中で、周囲諸国とのさまざまな交流を持ち、その中で独特の文化芸術と思想を育んだのだと、あらためて感じました。

二十年ほど前、私の三人の息子たちは音楽のレッスンを受けていました。当時はCDもたくさんあり、音楽に無知の私も、少しはオペラの知識も得ました。その後、子供達が県外を来してから部屋が整理され、全てのCDは消えたようです。

さて、こんな時にお気に入りの楽曲を紹介してほしいと書かれて、とても困りました。音楽なんて、無縁の私は音楽が解らない人間だといつも思っているのです。

ところが、あ、そうだと、おもいつきました。1つだけ、CDがあったと。そのCDは、最近、60年以上逢っていない小学生の頃と同級生が、福岡から来県した際、集りを呼びかけてくれた友だちが記念にとくれたCDで、CD名は、花ヌカジマヤー。CDを友達皆にプレゼントしてくれた人は真栄城玄一さんと、沖縄交響楽団のフルート奏者です。

このCDは沖縄交響楽団が沖縄の楽曲を演奏し、収録したものです。沖縄交響楽団は、1956年5月に米軍人、ミシェルリツシュ氏の呼びかけで誕生しました。当初、数人の弦楽器に、フルート、クラリネットを加えた、実にささやかな楽団だったようです。今や大きく成長し、定期演奏会を行い、離島への演奏会旅行もあるそうです。また、このCDの収録場所が、興南高校の音楽教室だという事も、なかなか心をひかれます。

私は大学卒業後、ハワイ大学の研修システムにのっとった研修システムで、中部病院の研修をうけ、その当時のアメリカ的な教育のおかげで現在があると、いつも感謝をしています。そんなこともあり、私はこのCDに米軍統治下時代のストーリーがつくことでも魅力を感じます。この楽曲をつくられた方は、沖縄の楽曲の音の理解を多くの人々に求めるため、沖縄楽曲の水平的なメロディに、垂直的な音をかさねたと話しております。このCDから楽曲が流れてくると、幼い頃から聴き慣れたティンサグの花や、じんじんや、谷茶前ぬ浜や・・・いろいろな沖縄のなつかしい歌が、いつのまにかくちずさまれます。こんな歌のぬくもりの中で育った事が、誇らしく、安心感にひたります。

## 会員寄稿

詩歌

### 「八十路に入りて時に思うこと」

末吉内科外科胃腸科医院 院長 末吉 惟純



一、傘寿を祝い、更に生き行く身あらば、  
未だ 知覚せぬことの多かりしと、  
己が五感 衰え果てぬ間に、  
如何に為すことなきかと思えど  
唯、齷齪するのみ。

二、さもありなむ、されどこの期に至り、  
何を思い煩うことありや、  
終焉の地、何時、誰か知るらむ。  
溪谷の白松 閑居して  
静寂に輝けり

令和元年十一月九日

末吉内科外科胃腸科医院

末吉 惟純

## 新入会会員寄稿

### 「沖縄は緑内障アイランド 緑内障診療を専門に」

浦添さかい眼科 酒井 寛



令和元年8月より、浦添市医師会に加えて頂きました浦添さかい眼科の酒井寛です。院長である妻の美也子と共に働いております。浦添市医師会の皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私は平成5年に琉球大学を卒業後より、今に至るまで緑内障の研究および臨床に携わっております。「沖縄の緑内障」としても知られている閉塞隅角緑内障に大きな興味をもっており、最近も（治安状況にもかかわらず）香港経由でスリランカに行き「閉塞隅角緑内障の視野障害」「低侵襲緑内障手術」について招待講演をして参りました。

また、大学時代に大規模疫学調査久米島スタディにも携わって参りました。このスタディの結果、沖縄には閉塞隅角緑内障が本土の3倍以上多く、開放隅角緑内障も同じだけ存在するだろうということが分かりました。沖縄は日本において最も緑内障有病率が高い「緑内障アイランド」かもしれません。今回はせっかくの機会ですので、自己紹介として私の研究と沖縄の緑内障について記させて頂きたいと思えます。

緑内障はどのような病気でしょうか？「眼圧が上昇して視神経が障害され視野が障害される疾患」というのがおそらく模範解答かと思いますが、これは一つの側面に過ぎないようです。沖縄で本土の3.7倍多いとされる閉塞隅角緑内障では、診断時に眼圧が高いのは約半数です。眼圧が高くない残りの半数では、おそらく眼圧変動により診察時には眼圧が高くないものと考えられています。そのため、閉塞隅角緑内障は眼圧依存である、というのは概ね正しいようです。しかしながら、沖縄でも、もっとも多い病型は開放隅角緑内障で閉塞隅角緑内障の約2倍の有病率となっています。この開放隅角緑内障患者の80-90%では眼圧が高くありません。実は、リスクファクターとしては近視、加齢の方が重要です。加齢で有病率が上昇するというのは理解しやすいのですが、近視という本人にも分かりやすい状態（疾患）が最も多い緑内障（開放隅角緑内障）の最重要の危険因子である、というのは意外な気がしませんか？久米島スタディデータの多変量解析の結果、近視の原因である眼軸長の延長（眼の奥行きが長いこと）が直接的に開放隅角緑内障と関連していることが分かりました。発生学的に脳の一部と言える眼球が、正常範囲を超えて伸張してしまったのが近視です。これは、通常は小学校高学年から中学生にかけておこりますが、その時に網膜やその周辺の組織は（神様の）設計図以上に引き延ばされ、特に視神経の出入り口である視神経乳頭と周辺組織の変形（図参照）をもたらします。視神経乳頭を形成する網膜神経節細胞は直接投射する外側膝状体の細胞から神経栄養因子を軸索輸送で細胞体に運び込むことによってサバイバルしています。

視神経乳頭の変形（陥凹拡大）は、近視以外にも加齢、眼圧の上昇でも起こりますが、



## 追悼寄稿

### ありし日の赤嶺達生先生を偲んで

元 浦添胃腸科外科医院 院長 山内 義正



平成 31 年 3 月、赤嶺達生先生から那覇市内の病院に入院しているとお電話がありお見舞いに行きました。その時は、近々退院して自宅療養されるとのことで、お元気なお姿を拝見し安堵しました。

その後しばらくお会いしていなかったので、令和元年 7 月 12 日に奥様にお電話をしたら、また元の病院に入院中とのことでお見舞いに行きました。その時も、近々退院して外来通院に移ることを病院と話し合いをしているとのことでした。

その矢先、令和元年 7 月 25 日に赤嶺先生が亡くなられたと奥様からお電話がありました。病状進行の速さに深い悲しみと驚きを禁じ得ませんでした…。

赤嶺達生先生と私の出会いは、昭和 52 年 12 月に赤嶺先生が県立北部病院を退職されて、昭和 53 年 1 月から浦添胃腸科外科医院に勤めて下さった時からの始まりでありました。

当時は、胃癌の早期発見・早期治療は消化器専門医の合言葉でありました。那覇市与儀在の琉球大学保健学部の先生方をお招きして、毎週土曜日の午後、赤嶺先生も一緒にその週に撮影した上部消化管の X 線造影写真と内視鏡フィルムの読影会を行い、病変の見逃しを防いでいました。

赤嶺先生には、外来患者の診察と入院患者の回診を担当していただきました。

浦添胃腸科外科医院を退職され、昭和 56 年 1 月に赤嶺内科小児科医院を開院されました。

開院以来、地域住民の診察業務を行い、市民から家庭医として信頼されるお医者さんでした。浦添市実施の予防接種事業、特定健診も受託され、市民の健康を守って下さいました。

また、大平特別支援学校の学校医を長年担当していただき、浦添市内の認可保育園、認可外保育園の園児の健康診断にも繁々と出掛けておられました。

浦添市医師会では、久田友一郎先生主導の糖尿病病診連携事業の勉強会には積極的に参加され司会を務めていただき、浦添市内各医療機関の病診連携事業の礎を築いて下さいました。

人様から依頼されると断れないお人柄で、平安常良先生が医師会長の時、浦添市医師会からの推薦で沖縄県医師会理事も務めていただきました。

私が浦添総合病院に 2 週間入院している時は、ご自分の診療の傍ら、私の医院の患者を時間制限して診察していただきました。全く頭の下がる思いでした。大変ありがとうございました。

このように赤嶺達生先生は、浦添市医師会員、浦添市地域住民から大変信頼されたお医者さんでした。まだまだ浦添市民のために働いていただきたいお医者さんでしたが、享年 77 歳のご逝去誠に残念の至りでございます。

赤嶺先生のごこれまでの活躍とご功績に感謝し、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

合掌  
(2019 年 11 月)



浦添市医師会設立 25 周年記念式典において「浦添市医師会学校保健功労者表彰」を受賞  
(平成 29 年 7 月 6 日：ラグナガーデンホテル)



前列左 1 人目：赤嶺達生先生

## 訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



令和元年 7 月 25 日御逝去

故 赤嶺 達生 先生 (享年 77 歳)

\*役員歴

- ・沖縄県医師会理事 (平成 4 年 4 月 1 日～平成 8 年 3 月 31 日)
- ・浦添市医師会監事 (平成 8 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日)



令和元年 9 月 16 日御逝去

故 嘉手納 啓三 先生 (享年 69 歳)

# 理事会報告（令和元年5月～令和元年12月）

## 令和元年5月20日（月）19:30

1. 入会・退会・異動報告
2. 第40回浦添市学校保健会定期総会について
3. 「With you～ OKINAWA 2019」について
4. うらそえ多職種親睦会2019について
5. 浦添市医師会二水会（6月）について
6. 浦添市国民健康保険健康ポイント事業について
7. その他
  - ・第55回浦添市医師会定時総会について
  - ・8月二水会（浦添市との意見交換会）について
  - ・沖縄県社会保険協会2019年度会費について

## 令和元年6月17日（月）19:30

1. 入会・退会・異動報告
2. 6月二水会（外国人の診療に関するセミナー）について
3. 第55回浦添市医師会定時総会について
4. 第143回浦添市医師会学術講演会について
5. 8月二水会（浦添市との意見交換会）について
6. 第61回地区医師会連絡協議会における協議題の募集について
7. 令和元年度各種表彰候補者について
8. その他
  - ・FM21「ゆんたく健康トーク」再放送について
  - ・浦添市ボランティア連絡協議特別賛助会費について

## 令和元年7月16日（火）19:30

1. 第143回浦添市医師会学術講演会について
2. 学校健診に関する養護教諭との意見交換会について
3. 8月二水会（浦添市との意見交換会）について
4. 第30回浦添市医師会ボウリング大会について
5. 令和元年度沖縄県医療介護連携セミナーについて
6. 浦添市医会報リニューアル号について
7. 第25回地域福祉実践研究セミナーについて
8. 第25回うらそえ市民公開講座について
9. 臨床検査精度管理委員会について
10. 承認事項
  - ・「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止活動を支援するための募金運動（募金箱を医師会事務局内に設置）
  - ・子宮頸がんから女性を守る市民公開講座共催依頼について

- ・第6回バリアフリーオリンピック共催依頼について
- ・「青少年に母の愛を」第34回チャリティーショー広告掲載について
- ・第49回全国ろうあ女性集会への寄付について

## 令和元年8月19日（火）19:30

1. 入会・退会・異動報告
2. 第30回浦添市医師会ボウリング大会について
3. 第25回地域福祉実践セミナーについて
4. 第144回浦添市医師会学術講演会について
5. 第55回浦添市医師会ゴルフコンペについて
6. 第21回うらそえ市民公開講座について
7. 学校健診に関する養護教諭との意見交換会について
8. 那覇市地域産業保健センター運営協議会委員推薦について
9. 承認事項
  - ・実践的認知症セミナー 後援について
  - ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019沖縄うらそえ後援並びに広告協賛について
  - ・第42回浦添てだこまつりへの寄付について
10. その他
  - ・浦添市プレミアム付商品券について

## 令和元年9月17日（火）19:30

1. 入会・退会・異動報告
2. 報告事項
  - ・令和元年度第1回那覇地域産業保健センター運営協議会 報告
  - ・第25回地域福祉実践研究セミナー 報告
  - ・令和元年度第1回沖縄県産業医研修連絡協議会 報告
  - ・「浦添市糖尿病研究会」発足について
3. 第144回浦添市医師会学術講演会について
4. 第55回浦添市医師会ゴルフコンペについて
5. 第21回うらそえ市民公開講座について
6. 10月二水会について
7. 研修会のご案内
  - ・労災医療に関する学術的研修について
  - ・FROM-J研究10年後の長期予後調査研究説明会について
8. 承認事項
  - ・令和元年度沖縄平和賞支援募金について
  - ・第2回浦添市CKD・糖尿病性腎症対策講演会について
9. その他
  - ・台中市医師公会との懇談会・懇親会について
  - ・沖縄県医師会館使用料の変更について

## 令和元年10月21日（月）19:30

1. 退会・異動報告
2. 報告事項
  - ・令和元年度第1回地区医師会特定健診担当理事者会 報告
  - ・第21回うらそえ市民公開講座 報告
3. 第2回浦添市CKD・糖尿病性腎臓病対策講演会について
4. 第61回地区医師会連絡協議会について
5. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019沖縄うらそえについて
6. 令和元年度 浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座について
7. 令和元年度 永年勤続医療従事者表彰式並びに懇親会について
8. 事務連絡
  - ・「風しん抗体検査委託事業」及び「麻しん抗体検査・MRワクチン委託事業」医療機関向け説明会について
  - ・浦添市医師会忘年会について
9. 承認事項
  - ・沖縄県薬物乱用防止協会への寄付について
  - ・浦添市観光協会会費について
  - ・心不全地域連携パス運用に向けた医療介護連携学術講演会のご案内

## 令和元年11月18日（月）19:30

1. 退会・異動報告
2. 報告事項
  - ・第1回会員の倫理向上委員会について
  - ・令和元年度第2回沖縄県産業医研修連絡協議会について
  - ・令和元年度浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座について
3. 令和元年度那覇空港航空事故対処部分訓練について
4. 令和元年度多職種連携研修会について
5. 令和元年度浦添市医師会忘年会について
6. 令和元年度医療連携体制推進事業について
7. 表彰関係
  - ・秋の叙勲（瑞宝双光章）※学校医40年以上 令和2年1月祝賀会開催予定  
多々羅 靖弘先生（浦添中央医院 院長）
  - ・文部科学大臣表彰（学校保健分野）令和元年11月21日埼玉県にて表彰式  
狩俣 陽一先生（かりまた内科医院 院長）
  - ・沖縄県医事功労者医師会長表彰 ※浦添市医師会より5名表彰  
令和2年1月11日（土）沖縄県医師会新年祝賀会で表彰  
仲西 義祐先生（仲西内科医院 院長）  
久田 友一郎先生（浦添総合病院健診センター）  
山里 将進先生（かじまやークリニック）  
宮良 球一郎先生（宮良クリニック 院長）  
辺土名 仁先生（みどり耳鼻咽喉科 院長）

8. 承認事項
  - ・第20回うらそえ車いすサッカー大会協賛広告について
  - ・首里城復元に向けた寄付金について
  - ・令和元年台風被害による被災医療機関等に対する支援金について
  - ・うらそえ介護福祉士会主催 映画「ピア まちをつなぐもの」について
9. ご案内
  - ・沖縄県医師会理事者忘年会について
  - ・令和元年度浦添市健康講演会について（比嘉 耕一先生ご講演）

## 令和元年12月16日（月）19:30

1. 退会・異動報告
2. 報告事項
  - ・令和元年度第1回学校医部会常務理事会について
  - ・第1回地区医師会医療保険担当理事連絡協議会について
  - ・令和元年度第1回おきなわ脳卒中地域連携委員会総会について
3. 第145回浦添市医師会学術講演会について
4. 浦添市医師会旧正新年会について
5. 第146回浦添市医師会学術講演会について  
（令和元年度うつ病に対する医療等の支援体制の強化事業を兼ねる）
6. 三役会報告について
  - ・警察医の選任について
7. 表彰関係
  - ・沖縄県公衆衛生大会  
令和2年1月10日（金）  
沖縄県公衆衛生沖縄県知事表彰  
源河 朝博先生（げんか耳鼻咽喉科 院長）  
沖縄県公衆衛生大会長表彰  
銘苺 晋先生（浦添総合病院 副理事長）
8. 承認事項
  - ・首里城火災復旧支援金について
  - ・同仁病院市民公開講座医療従事者向け講座 後援について
  - ・おきなわ妊活・不妊サポート協会「第1回おきなわ妊活フェスタ」後援について
  - ・沖縄県脊髄損傷者協会「働く応援フェスタ」後援について
9. お知らせ
  - ・沖縄県医師会主催 令和2年沖縄県医師会新年祝賀会並びに医事功労者表彰式
  - ・沖縄県医師会主催 叙勲等受賞者祝賀会（多々羅靖弘先生ほか3名）

## 入会・退会・異動報告 (令和元年5月理事会～令和元年12月理事会)

入 会			
氏 名	医療機関名	診療科目	入会年月日
豊里 一郎	平安病院	精神科	H31.4.1
照屋 明子	比嘉眼科	眼科	R1.7.1
酒井 寛	浦添さかい眼科	眼科	R1.8.1

異 動			
氏 名	医療機関名	異動事由	異動年月日
野波 啓樹	浦添総合病院	会員区分変更	H31.4.1
比嘉 弘文	比嘉眼科	名称変更・病床数変更	R1.9.1
比嘉 明	比嘉眼科	名称変更・病床数変更	R1.9.1
照屋 明子	比嘉眼科	名称変更・病床数変更	R1.9.1

退 会			
氏 名	医療機関名	退会事由	退会年月日
仲村 将高	浦添総合病院	退職	H31.3.31
城間 千歳	比嘉眼科	医師会の異動	R1.6.30
赤嶺 達生	赤嶺内科小児科医院	ご逝去	R1.7.25
長嶺 安哉	長嶺内科医院	医師会の異動	R1.8.31
嘉手納 啓三	浦添総合病院	ご逝去	R1.9.16

## 表彰 (令和元年5月～12月)

### 令和元年 秋の叙勲 (瑞宝双光章)

多々羅靖弘 先生 浦添中央医院 院長  
\*学校保健功労 (学校医歴40年以上の功績)

### 警察協力章

多々羅靖弘 先生 浦添中央医院 院長  
\*警察医30年以上の功績

### 文部科学大臣表彰 (学校保健及び学校安全表彰)

狩俣陽一 先生 かりまた内科医院 院長  
\*学校保健功労 (学校医歴30年以上の功績)

～この度の受賞、誠におめでとうございます～

## 講演会・研修会等のご案内 予定が変更になることもございます。ご了承ください。

日 時	場 所	講演会・研修名	講 師	日医生涯教育制度カリキュラムコード
2/10(月) 19:00	PIZZA HOUSE 本店	浦添市医師会旧正新年会 (二水会)	—	—
2/27(木) 19:00	浦添市 社会福祉センター 3階大研修室	令和元年度 医療連携体制推進事業 「糖尿病に関わる 医師と医療スタッフの ための研修会」	座長:島尻佳典先生 (キンザー前クリニック 院長) 基調講演 報告者:宮里昌先生 (みやざと内科クリニック 院長) 特別講演 演者:田中永昭先生 (日本ソムリエ協会認定ワインエキスパート、 関西電力病院 糖尿病・代謝・内分泌センター部長)	10 (チーム医療) 76 (糖尿病)
2/29(土) 19:00	浦添市医師会	第146回浦添市医師会 学術講演会 (令和元年度うつ病 に対する医療等の 支援体制の強化事業)	座長:大田郁也先生 (大田クリニック 院長) 講師:長田清先生 (長田クリニック 院長・ 沖縄いのちの電話 理事長)	4 (医師-患者関係と コミュニケーション) 69 (不安)
3/18(水) 19:00	浦添市医師会	第147回浦添市医師会 学術講演会	座長:調整中 講師:赤崎満先生 (南部徳洲会病院 院長)	調整中
3/20(金) 7:30	琉球 ゴルフ倶楽部	第56回浦添市医師会 ゴルフコンペ	—	—
3/23(月) 19:30	浦添市医師会	第56回浦添市医師会 予算総会	—	—
4/8(水) 19:00	浦添市医師会 (予定)	令和元年度(第22回) 浦添市医師会学術奨励賞発表会	—	—
4/15(水) 19:00	浦添市医師会 (予定)	令和元年度(第22回) 浦添市医師会学術奨励賞発表会	—	—

※浦添市在宅医療ネットワーク世話人会は毎月開催しております。詳細が決まり次第ご連絡申し上げます。

## 首里城火災復旧支援金のご協力について (お願い)

昨年10月31日未明に、沖縄県民にとって象徴的な存在であり、歴史と文化の心に彩られた首里城が、火災により正殿をはじめとする7棟が焼失するという甚大な被害を受けました。

首里城の再建に向けた動きが加速する中、沖縄県内外より復旧・復興のための多数の励ましや支援の申し出が寄せられているとのこと。

沖縄県医師会ならびに県内各地区医師会も、昨年11月に第一弾となる100万円の寄付金を沖縄県医師会を通じて沖縄県へ寄付致しました。

現在は、第二弾と致しまして、会員の皆様を対象としました支援金募集を行っているところです。

この募集により皆様からお預かりした支援金は、その全額を首里城の復旧・復興に取り組む沖縄県へ寄付させていただきます。

つきましては、一人でも多くの会員の皆様がこの趣旨にご賛同賜り、一丸となって沖縄の歴史を物語る文化遺産である首里城が、一日でも早く復興できるようお手伝いをして参りたいと考えております。

会員の皆様のご理解及びご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

\*昨年12月3日付、全会員あて下記3点を送付致しております。

「首里城火災復旧支援金趣意書」

「募集要綱」

「首里城火災復旧支援金申込書」

ご不明な点は、浦添市医師会事務局までお問い合わせ下さい。



一刻も早い首里城再建を目指して!!

## 事務局からのお知らせ

### 浦添市医師会ホームページ掲載情報について

浦添市医師会ホームページでは会員医療機関の診療時間などを掲載し、広く情報公開をしています。診療時間、受付時間、診療科目の変更・追加などがある時は、浦添市医師会事務局へご一報下さいますようお願いいたします。

浦添市医師会事務局

TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362

E-mail:info@uraishi.or.jp <http://www.uraishi.or.jp>

### 浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー 専用電話番号のご案内

浦添市在宅医療・介護連携支援センター うらっしーの専用電話番号を設置しています。在宅医療・介護等についてのご相談はこちらの番号へおかけ下さい。FAXでのご相談の場合は、これまで通り浦添市医師会と共有です。

うらっしー専用電話番号 TEL:098-894-2698

### 弔事に係るご連絡について(お願い)

浦添市医師会では浦添市医師会運営規定に基づき、会員並びに会員の親等以内の親族の方が亡くなられた際は、供花、香典と共に新聞に弔慰広告を掲載し、弔意を表すこととなっております。

供花等を供する際の必要事項を記入する様式を備えておりますので、そのようなときは浦添市医師会へお電話にてご連絡下さい。

浦添市医師会 TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362

沖縄県医師会 TEL:098-888-0087 FAX:098-888-0089

日曜・祝祭日 連絡先:090-6861-1855

# 浦添市医師会報 表紙写真・原稿募集のお知らせ

いつもお世話になっております。本会では、会報を年3回発行しており、よりおもしろく、よりためになり、親しみのある紙面作りをめざしています。

会報の表紙を飾る写真の投稿、随筆、書評、趣味の話・・・など、先生方の多岐にわたるご寄稿をお待ちしております。

原稿は随時募集しておりますメールまたは郵送にて浦添市医師会あてお送りくださいますようお願いいたします。

また、メディカルスタッフの皆様にも、本会会報へのご投稿について、どうぞお声かけ下さいますようお願いいたします。

## 寄稿仕様

### ①表紙の写真

写真タイトル・表紙のことは(簡単な説明)・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、浦添市医師会あてメールまたは郵送にてお送り下さい。

### ②随筆・書評・趣味の話・その他

タイトル・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、日常診療のエピソード、紀行文、書評、趣味などお気軽にご寄稿下さい。

※メールでお送り下さる場合は、件名に「浦添市医師会報寄稿」とご入力下さい。

### ★会報に関する問い合わせ先★

浦添市医師会事務局 〒901-2132 浦添市伊祖3-3-1 アルマーレ101

TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362

Email:info@uraishi.or.jp

## 編集後記

新しい元号に代わってから初めての新年を迎え、そろそろ「令和」にも慣れ親しんできたころではないでしょうか。

さて、浦添市医師会報は前号から、令和の時代に入ったのを機に全面リニューアルさせていただきました。紙面をA4版と大きくしオールカラーとしましたので、字が大きくなり、写真もきれいなのでとても読みやすくなったとご好評をいただいております。

今回の新年号は、まず会長、副会長の挨拶に始まり、今年の夏から年末までに開催された会議の報告や医師会主催の各種イベントの報告が掲載されています。カラー版になったことで写真が見やすく、報告の内容がとてもわかりやすくなっているのではないかと思います。また今号で特筆すべきことは、医師会ゴルフコンペの報告をはじめ、会員寄稿等で多くの先生方のご寄稿をいただき、これまでの医師会活動報告中心の会報から、会員参加型の内容の濃い会報に変わってきているのではないかと思います。寄稿文を通して、長く医師会に関わっていらっしゃる大先輩の先生方の意外な一面を知ることが出来たり、新たに入会された先生のプロフィールを知ることが出来たりと読んでいて楽しい内容が増えています。ご多忙の中、ご執筆いただいた先生方にはこの場を借りて御礼を申し上げます。

今後もこの浦添市医師会報は、医師会と会員あるいは会員相互の情報交換の場として、また地域に対しては医師会活動の情報発信の場として皆様のお役に立つツールとなる様、そして何よりも会員の皆様に「読んでいておもしろい」と言ってもらえる紙面になる様、事務局、広報担当とも頑張っていきたいと思います。会員の皆様に事務局から執筆の依頼がありました際には、何とぞご協力の程をお願い申し上げます。また、FM21「ゆんたく健康トーク」へ出演される皆様におかれましては市民への情報提供を通して、今年も是非盛り上げていただきます様、よろしく願いいたします。

(会員親睦・広報担当理事 藏下 要)

浦添市医師会報 2020年(令和2年)新春号 通算第82号

発行:一般社団法人浦添市医師会 発行人:池村 剛

〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖3-3-1 101

TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362

E-mail info@uraishi.or.jp ホームページ http://www.uraishi.or.jp

制作/株式会社スイッチ

# 2020年FM21「ゆんたく健康トーク」出演予定表

(2020年1月～6月)

1月		2月	
6日	新春三役座談会(*生放送)	3日	うらそえ介護福祉士会
13日	浦添市地域包括支援センターさっとん	10日	山本クリニック
20日	向井わらびクリニック	17日	あかみねクリニック
27日	稲福内科医院	24日	大田クリニック

3月		4月	
2日	補聴相談のひろば	6日	まえだクリニック
9日	さくだ内科クリニック	13日	池村クリニック
16日	耳鼻咽喉科・頭頸部外科さきはまクリニック	20日	牧港中央病院
23日	浦添総合病院健診センター	27日	まちなと小児クリニック
30日	浦添さかい眼科		

5月		6月	
4日	浦添市保健相談センター	1日	ていーら整形外科
11日	ちねん眼科	8日	嶺井第一病院
18日	パークレーいむろ心のクリニック	15日	かじまやークリニック
25日	平安病院	22日	名嘉村クリニック
		29日	浦添市(いきいき高齢支援課)

**ラジオ番組** 浦添市医師会提供  
**「ゆんたく健康トーク」 毎週月曜日 午後8時～9時**

FM21 (76.8Mhz) で好評放送中！

## FM21「ゆんたく健康トーク」再放送のお知らせ

毎週月曜日の午後8時から放送しております  
「ゆんたく健康トーク」の再放送が決定！  
月曜日に放送した回を、毎週日曜日の朝6時～7時に再放送します♪